

令和8年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

第1回幹事会

日時：令和8年7月23日（木）13:30～15:30

場所：新冠町レ・コード館 研修室1（オンライン併用）

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- （1）日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約及び日高山脈襟裳十勝国立公園協議会登山道部会規約・名簿の変更について【報告】
- （2）令和7年度の各構成員の取組について【報告】
- （3）令和8年度の各構成員の取組報告・予定について【報告】
- （4）管理運営計画の改定（進め方）について【協議】
- （5）日高山脈を展望できる駐車帯等の整備について【協議】
- （6）日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の今後の進め方について【協議】
- （7）その他各構成員からの報告事項【報告】

3. その他

4. 閉 会

【配付資料】

構成員・出席者名簿

資料1 (1) 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約（令和8年7月1日版）

資料1 (2) 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会登山道部会規約・名簿（令和8年7月1日版）

資料2 令和7年度の各構成員の取組報告について

資料3 令和8年度の各構成員の取組報告・予定について

資料4 (1) 行動計画の作成について

資料4 (2) 行動計画骨子（たたき台）

資料5 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の当面の進め方について（令和8年7月23日版）

資料6 各構成員からの情報提供資料

(1) 日高北部森林管理署管内の入林者名簿記載者数(日高北部森林管理署)

(2) 十勝西部森林管理署管内における入林者数の状況について(十勝西部森林管理署)

(3) 令和7年度シンポジウム「日高から考える持続可能な観光と地域づくり」概要（北海道開発局）

(4) 令和8年度日高山脈襟裳十勝国立公園における環境保全の仕組み構築に向けた検証事業について（北海道運輸局）

(5) 良好な水環境の創出に向けたシンポジウムの開催について(北海道環境局)

参考資料1 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約（令和8年4月10日変更）

参考資料2 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会登山道部会規約・名簿(令和7年5月7日決定)

参考資料3 国立公園管理運営計画作成要領

令和8年度第1回日高山脈襟裳十勝国立公園協議会幹事会
出席者名簿

分野	所属名	役職名	構成員名(敬称略)	WEB
国	日高北部森林管理署	総括事務管理官	長崎 隆憲	○
	日高南部森林管理署	総括事務管理官	大水 貴博	○
	十勝西部森林管理署	総括事務管理官	水谷 豊	○
	北海道開発局	開発監理部 開発連携推進課 開発企画官	堀田 靖文	○
	北海道運輸局	帯広運輸支局 首席運輸企画専門官	徳田 陽介	○
	北海道運輸局	室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官	小林 俊介	
	北海道環境局	国立公園課長	尼子 直輝	
北海道	環境生活部 自然環境局 自然環境課	公園利用係長	今 哲也(代理出席)	○
		公園保全係長	藤田 竜太(代理出席)	○
	日高振興局	保健環境部 環境生活課長	曾我 浩二	
	十勝総合振興局	保健環境部 環境生活課長	渡辺 昭裕	○
市町村	帯広市	環境課長	大橋 由幾	○
	日高町	地域経済課長	高橋 健	
	平取町	観光商工課長	藤谷 直樹	
	新冠町	企画課長	佐渡 健能	
	浦河町	商工観光課長	民部 宏治	
	えりも町	産業振興課長	武田 健太郎	○
	新ひだか町	まちづくり推進課長	森 勝利	
	清水町	農林課 林務係長	木戸 悠登(代理出席)	○
	芽室町	環境土木課長	齋藤 和也	○
	中札内村	産業課長	平澤 悟	○
	大樹町	住民課長	西尾 真也	○
	広尾町	水産商工観光課長	山田 雅樹	
登山関係団体	十勝山岳連盟	会長	齊藤 邦明	
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ	事務局長	田村 裕之(代理出席)	○
	十勝自然保護協会	理事	川内 和博(代理出席)	

観光関係団体	十勝観光連盟	専務理事	植松 秀訓	○
	日高管内観光連盟	事務局長	高田 匡介	○
アイヌ団体	(公社) 北海道アイヌ協会	主任	貝澤 和明 (代理出席)	○
	(公社) 北海道アイヌ協会	副理事長	木村 英彦	

【随行者】

分野	所属名	役職名	構成員名 (敬称略)	WEB
国	日高北部森林管理署	事務管理官	中山 勇樹	○
	日高南部森林管理署	事務管理官	阿部 達矢	○
	十勝西部森林管理署	事務管理官	米田 和敏	○
	北海道開発局	開発監理部 開発連携推進課 開発専門官	金田 晴仁	○
		開発監理部 開発連携推進課 上席専門官	熊木 朋子	○
		開発監理部 開発連携推進課 課員	岩田 梨生	○
		室蘭開発建設部 地域連携課 課長	村田 陽子	
		室蘭開発建設部 地域連携課 課長補佐	清水 敏史	○
		室蘭開発建設部 地域連携課 専門官	門 佐絵子	○
		室蘭開発建設部 地域連携課 課員	山口 陽菜	○
		室蘭開発建設部 技術管理課 課長	増田 精治	
		室蘭開発建設部 技術管理課 課長補佐	高 浩行	○
		室蘭開発建設部 技術管理課 専門官	高田 賢一	
		帯広開発建設部 地域連携課 課長	黒川 忍	○
		帯広開発建設部 地域連携課 上席専門官	堂前 貴司	○
		帯広開発建設部	飯田 孝	○

		技術管理課 課長		
		帯広開発建設部 技術管理課 課長補佐	須田 佳大	○
	北海道運輸局	観光部 観光企画課長補佐	新吾 元規	
		観光部 観光企画課係長	天羽 裕香	
北海道	日高振興局	管理課 管理係長	林 直樹	
		環境生活課 自然環境係長	林 正敏	
		環境生活課 自然環境係主事	佐々木 尽	
	十勝総合振興局	環境生活課 自然環境係長	滝下 麻耶	○
		環境生活課 主任	川岸 昌	○
市町村	帯広市	環境課 自然公園係長	林 裕樹	○
	平取町	観光商工課 観光係準職員	山木 正生	
	浦河町	商工観光課長補佐	三上 貴之	○
	芽室町	生活環境係長	平山 亮輔	○

【事務局】

北海道環境局	国立公園課 課長補佐	田畑 桂
	国立公園課 課長補佐	相原 百合
帯広自然保護官事務所	上席自然保護官	柳田 邦敏雄
	登山道保全調整等専門員	谷水 亨
新ひだか自然保護官事務所	自然保護官	草留 大岳
	自然保護官補佐	水嶋 太郎
アジア航測株式会社		入江 潔
		本部 星
		高田 雄介
		渡邊 朝美

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約

(名称)

第1条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会と称する。

(目的)

第2条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進することを目的として設置する。

(協議事項)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事項を協議する

- (1) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンに関する事項
- (2) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの実現に向けた管理運営方針及び行動計画に関する事項
- (3) 前号の行動計画に基づく取組の実施に関する事項
- (4) その他、前条の目的の達成のために必要な事項

(構成)

第4条 本会は、別添1に掲げる機関、団体等により構成する。

(会長)

第5条 会長は、北海道環境局長が務める。

(総会)

第6条 総会は、年1回開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。

- 2 総会の議長は、会長が務める。
- 3 総会は、第3条の事項について協議する。

(幹事会)

第7条 本会に、幹事会を設置する。

- 2 幹事会は、必要に応じて事務局が招集する。
- 3 幹事会の構成員は、別添2による。
- 4 幹事会は、総会の議事に関する予備的協議、その他連絡調整を行う。
- 5 幹事会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 本会に、部会を設けることができる。

- 2 部会の設置及び運営に必要な事項は、総会において決定する。
- 3 部会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 本会の事務局を、**北海道環境局**国立公園課に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。

附則

この規約は、令和6年8月27日から施行する。

この規約は、令和7年6月23日から施行する（構成員の一部変更）。

この規約は、令和8年4月10日から施行する（構成員の追加）。

この規約は、令和8年7月1日から施行する（会長及び事務局の組織名並びに構成員役職の変更）。

機関・団体等	構成員
学識経験者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署長
	十勝西部森林管理署長
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課長
	北海道運輸局観光部長
	北海道環境局長
北海道	環境生活部長
	日高振興局長
	十勝総合振興局長
市町村	帯広市長
	日高町長
	平取町長
	新冠町長
	浦河町長
	様似町長
	えりも町長
	新ひだか町長
	清水町長
	芽室町長
	中札内村長
	大樹町長
	広尾町長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会 共同代表
観光関係団体	十勝観光連盟会長
	日高管内観光連盟会長
アイヌ団体	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長

機関・団体等	幹事会構成員
有識者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署総括事務管理官
	日高南部森林管理署総括事務管理官
	十勝西部森林管理署総括事務管理官
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課開発企画官
	帯広運輸支局 首席運輸企画専門官(企画輸送・監査担当)
	室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官（総務企画担当）
	北海道環境局国立公園課長
北海道	環境生活部自然環境局自然環境課自然公園担当課長
	日高振興局環境生活課長
	十勝総合振興局環境生活課長
市町村	帯広市都市環境部環境室環境課長
	日高町日高総合支所地域経済課長
	平取町観光商工課長
	新冠町企画課長
	浦河町商工観光課長
	様似町商工観光課長
	えりも町産業振興課長
	新ひだか町総務部まちづくり推進課長
	清水町農林課長
	芽室町環境土木課長
	中札内村産業課長
	大樹町住民課長
	広尾町水産商工観光課長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会事務局長
観光関係団体	十勝観光連盟事務局長
	日高管内観光連盟事務局長
アイヌ団体	小川 哲也（公益社団法人北海道アイヌ協会理事長）
	木村 英彦（公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長）

(アドバイザー)

学識経験者

アイヌ文化関係団体

登山関係団体又は山岳ガイド事業者

遭難対策関係団体

自然保護関係団体

観光関係団体又は観光事業者

交通事業者

経済関係団体

金融関係団体

その他、協議会が認める者

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会登山道部会規約

(名称)

第1条 本部会の名称は、「登山道部会」とする。

(目的)

第2条 日高山脈襟裳十勝国立公園の核心部となる日高山脈の登山道は、非常に難易度の高いものから初級者に利用可能なものまで多岐にわたる。そのため、登山利用のリスク軽減並びに登山道及びその周辺環境の保全が図られるよう、既設登山道の適正利用に係る課題を把握し、普及啓発等の必要な対策について検討することを目的とする。

(検討事項)

第3条 日高山脈襟裳十勝国立公園全域に共通する以下の事項について検討を行い、その結果は日高山脈襟裳十勝国立公園協議会及び幹事会に報告する。

- (1) 登山道の適正利用に関する事項(入山心得、グレードの設定等)
- (2) 登山道及びその周辺環境の保全に関する事項(環境モニタリング等)
- (3) 上記のほか本部会の目的を達成するために必要な事項

(構成)

第4条 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会構成機関等のうち、参画を希望する者により構成するほか、必要に応じて、アドバイザーを招へいすることができる。

(開催頻度)

第5条 登山道の利用状況等を踏まえて、本部会で検討が必要な議題に応じて随時開催する。

(事務局)

第6条 事務局は、北海道環境局国立公園課が担う。また、必要に応じて、構成機関が共同事務局を担うこともできる。

附則

この規約は、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約第8条に基づき、令和7年5月7日より施行する。

この規約は、令和8年7月1日より施行する。(事務局の組織名の改定)

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会
登山道部会 名簿

構成
日高北部森林管理署
日高南部森林管理署
十勝西部森林管理署
北海道開発局
北海道運輸局
北海道環境局
北海道
帯広市
日高町
平取町
新冠町
浦河町
様似町
えりも町
新ひだか町
清水町
芽室町
中札内村
大樹町
広尾町
日高山岳連盟
十勝山岳連盟
アポイ岳ファンクラブ
十勝自然保護協会
十勝観光連盟
日高管内観光連盟
北海道大学大学院 教授 愛甲 哲也

※その他、必要に応じて、アドバイザーを招へいする。

令和 7 年度の各構成員の取組報告

(1) 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署 北海道環境局	シマフクロウの保護増殖のための巣箱設置	北海道環境局と連携し、管内国有林野にシマフクロウの保護増殖のための巣箱を設置予定(11月)	
日高北部森林管理署	森林保全巡視及び使用貸付地の確認	額平ルート・幌尻岳周辺について巡視(7月) 千呂露川二岐沢コース北戸蔦別岳周辺巡視(9月)	
日高北部森林管理署	鷓川・沙流川河岸浸食等調査	鷓川沙流川河川事務所が実施する同調査のために飛行した北海道開発局の災害対策ヘリ「ほっかい」に同乗し、国立公園区域を含む国有林野を上空から確認(6月)	
日高北部森林管理署	「幌尻原生林」(日高山脈森林生態系保護地域の一部)の解説板の設置	国立公園第2種特別地域内の同林分について、解説板を設置(5月)	
北海道運輸局	令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園における「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈の環境保全を持続可能なものにすることを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するため、現地基礎調査、地域セミナー、運営体制の検討等を実施。(2/6)	
北海道環境局	管理運営体制の強化	本公園の管理運営に携わる者として、新ひだか自然保護官事務所にアクティブ・レンジャーを配置。	
北海道環境局	エントランス標識の設置	来訪者に、国立公園に入ったことを認識してもらい、ルールを理解したうえで適正に利用されるよう、適切な行動を促すため、本公園の域内に入りこむ主要な車道沿い5箇所(国道236号(浦河町)、国道336号(様似町、広尾町)、道道34号(えりも町))に、エントランス標識を設置。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	登山道部会の設置	登山道の適正利用に関する事項並びに登山道及びその周辺環境の保全に関する事項等を検討するため、登山道部会を設置(R7.5)。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協	「日高山脈襟裳十勝国立公園	国立公園の厳正な保護及び適正な利用の推進を図るため、国立	

構成員名	取組	概要	再掲
議会(事務局:北海道環境局)	ビジョン」の決定	公園としてのビジョン(あるべき姿、目指すべき将来像)を決定(R7.8)。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園夏山登山5つの心得」の決定	日高山脈の登山をされる際に最低限守っていただきたいものとして「5つの心得」を作成(R7.5)。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～2025年度版～」の検討	登山利用をするに当たって自主的な行動判断をするための目安として「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード」の作成に向けた検討を進めた。	
帯広市	十勝幌尻岳登山口看板設置	十勝幌尻岳登山口に「夏山登山の5つの心得」の内容を表示した看板を設置。	
日高町	登山口トイレ及び携帯トイレ回収BOX管理運営(日高山脈登山会議事業)	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に簡易トイレ及び携帯トイレ回収BOXの管理運用を実施。 (運用期間 令和7年6月2日～9月30日) 携帯トイレ回収数 チロロ岳登山口2個 北戸蔦別岳登山口 72 個	
中札内村	安全登山及び環境保全の啓発活動	「山の日」に合わせて札内川ヒュッテ付近(カムイエクウチカウシ山及びコイカクシュ札内岳登山口)で、日高山脈の自然環境に配慮してもらう等を目的に登山者に対して携帯トイレの携行・配布を呼び掛けた。(8/11)	
十勝自然保護協会	歴舟川におけるサクラマス遡上調査及び魚道調査	毎年 5 月～10 月にかけて、歴舟川本流及び支流において目視で確認する。さらに、歴舟川水系で唯一魚道が設置されている歴舟中ノ川の魚道が機能しているかどうかを確認し、土砂や流木で機能が阻害されている場合は、管理者である北海道に連絡し、除去作業を実施。(6月・9月)	
十勝自然保護協会	広尾町におけるメガソーラー計画地の調査	本公園内に位置するフンベの滝近くの民有地で計画されているメガソーラー建設について、環境及び景観の観点から問題があるのではないかと考え、現地及びフンベの滝の調査を実施。	

(2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署	「幌尻原生林」(日高山脈森林生態系保護地域の一部)の解説板の設置	国立公園第 2 種特別地域内の同林分について、解説板を設置(5月)	○
日高北部森林管理署	日高自然の森自然観察教育林の施設等現地確認	国立公園普通地域内のレクリエーションの森について、レク森協議会構成団体と日高北部森林管理署で現地の樹名板、解説板、歩道等を確認(5月)	
日高北部森林管理署	国有林専用林道のゲートの開錠	登山口へのアクセス道となっているチロロ林道及びパンケヌシ林道について、夏山期間はゲートを開錠(一般道ではないことの注意喚起のため門扉は閉鎖)	
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と共に来賓として参加し、植樹指導等を実施。(6/18 えりも町内)	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(中学生植樹)	中学生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を実施。(6/25 えりも町内)	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を実施。(9/10 えりも町内)	
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明し、研修を実施。(9/29 えりも町内)	
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を実施。(10/27 えりも町内)	
北海道運輸局	令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園における「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈の環境保全を持続可能なものにすることを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するため、現地基礎調査、地域セミナー、運営体制の検討等を実施。(2/6)	○
北海道環境局	VR ゴーグルの貸出し	来訪者に自然環境の保全・保護に関心を持っていただけるよう、日高山脈ならではの山岳景観の魅力を紹介・表現した VR ゴーグルを製作し、町有施設への常設や、イベント等での貸出しを実施。	

構成員名	取組	概要	再掲
北海道環境局	「日高山脈襟裳十勝国立公園 小さなインタープリテーション 計画～試行版～」の検討	日高山脈襟裳十勝国立公園ならではの価値・魅力を伝える“物語 (ストーリー)”を伝えるインタープリテーション全体計画の検討を進 め、ワークショップを2回開催(12/18,2/3)。日高山脈襟裳十勝国 立公園インタープリテーション計画の試行版として、北部地域を対 象とした計画を作成。	
北海道環境局	広報:北海道国立公園アドベ ンチャーパスポートの製作	国立公園の素晴らしい自然や文化に興味をもっていただき、実際 に国立公園を訪れてアクティビティを通じてその素晴らしさを体験 していただくため、北海道にある7つの国立公園の概要とおすすめ のアクティビティをシンプルにまとめたパスポート形式のパンフレッ トを製作。	
北海道環境局	広報:日高山脈襟裳十勝国立 公園指定1周年記念フォトコ ンテスト「日高山脈とともに生 きる」の開催	本公園の魅力的な自然、文化等の普及啓発を目的として開催。合 計 186 の応募作品の中から、計 16 作品の受賞作品を選出。	
北海道環境局	広報:指定1周年記念フォトコ ンテスト受賞作品の展示(新 宿御苑)	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高 山脈とともに生きる」の受賞作品について、新宿御苑にて展示会を 開催(11/18～12/18)。	
北海道環境局	広報:指定1周年記念フォトコ ンテスト受賞作品の展示(道 内)	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高 山脈とともに生きる」の受賞作品について、日高管内・十勝管内の 8会場にて展示会を開催(1/17～)。	
北海道環境局	普及啓発:指定1周年記念「日 高山脈お絵かきイベント」(主 催:芽室町)への協力	国立公園の指定1周年を記念して開催された「日高山脈お絵描き イベント」での講師対応(8/11,12)	
北海道環境局	普及啓発:子どもパークレン ジャー事業	「日高山脈襟裳十勝国立公園子どもパークレンジャー2025 一番 身近な「国立公園」にいこう!」を開催し、子どもたちに自然保護の 大切さや自然とのつきあい方、また生き物に対する思いやりの心な ど、豊かな人間性を育んでもらうためのイベントを開催(8/20) ※日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会と共催	

構成員名	取組	概要	再掲
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	登山道部会の設置	登山道の適正利用に関する事項並びに登山道及びその周辺環境の保全に関する事項等を検討するため、登山道部会を設置(R7.5)。	○
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン」の決定	国立公園の厳正な保護及び適正な利用の推進を図るため、国立公園としてのビジョン(あるべき姿、目指すべき将来像)を決定(R7.8)。	○
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園夏山登山5つの心得」の決定	日高山脈の登山をされる際に最低限守っていただきたいものとして「5つの心得」を作成(R7.5)。	○
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～2025年度版～」の検討	登山利用をするに当たって自主的な行動判断をするための目安として「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード」の作成に向けた検討を進めた。	○
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念トークセッション	2名の自然保護官が日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や魅力について語るイベントを実施(6/25、道庁本庁舎)。	
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念シンポジウム	探検家・作家の角幡唯介氏による基調講演のほか、パネルディスカッションを実施(7/12、浦河町総合文化会館)。	
十勝総合振興局	環境教育ワークショップ	環境教育ワークショップを実施(11月)。	
日高振興局	体験型環境教育「なないろパークレンジャー」	小学生を対象に、コレクションカード等を活用した環境教育に係る学習意欲の向上、野外活動への参加促進を図る体験型環境教育を実施(7月～)。	
日高振興局	巡回パネル展	各町、振興局において国立公園に係るパネルを展示(6/3～7/29)。振興局においては、常設で展示	
日高振興局	国立公園写真パネル展	浦河高校写真部パネル展を開催(7/12)。	
十勝総合振興局	インスタレーション作品展示	中札内高等養護学校生が作成した日高山脈の雄大な自然を題材にした作品を展示(4月、JR帯広駅)。	
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	ツーリズム EXPO ジャパン2025	日高山脈の魅力等を旅行業界、一般消費者に向け実施(9/25～28、愛知県)。	

構成員名	取組	概要	再掲
日高振興局	SNS を活用した情報発信	日高山脈襟裳十勝国立公園に係るイベントや地域の魅力等を公式 SNS「ナナイロひだか」(X、Facebook、Instagram)で情報発信。	
十勝総合振興局	SNS を活用した情報発信	日高山脈襟裳十勝国立公園に係るイベントや地域の魅力等を「X」や「Instagram」で情報発信。	
十勝総合振興局	日高山脈めぐるとかちカードの配布	日高山脈周辺の見所を紹介するカードを道の駅や観光施設で配布(5月)。	
十勝総合振興局	国立公園指定1周年写真展	地域の暮らしとともにある日高山脈を紹介する写真展を開催(6月～11月)。	
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	北海道フェアへの出展	イオンの「北海道フェア」において、日高山脈襟裳十勝国立公園、関係市町村のPRを実施(7/1～6、9/25～10/1、埼玉県)。	
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	パネル展	本庁舎1Fで日高山脈襟裳十勝国立公園、関係市町村のPRを実施(1/29～30)	
日高振興局 十勝総合振興局	マップ、パンフレットの作成	「日高山脈マップ」、国立公園の周知・理解促進に向けたPRパンフレットを作成。 「日高山脈マップ」:令和8年1月完成。 「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう」:令和8年3月完成。 各町の関係各所、道の駅などで配布	
十勝総合振興局	啓発品の配布	「おびひろ氷まつり」で啓発品(ポストカード)を配布(2月)。	
日高振興局	各種イベント・事業での国立公園化に係る展示	地域おこし協力隊説明会(5/25～26) ひだかフェア in どさんこプラザ札幌店(5/28～6/3) 北海道移住相談会(6/15) 北海道ハイウェイ Show Area 2025 in 噴火湾パノラマパーク(八雲)(7/12～13) おいでや!いなか暮らしフェア(7/20) ひだかフェア in 札幌競馬場(8/30～31)	

構成員名	取組	概要	再掲
		札幌市内ホテルでのグルメイベント(グルメフェア) (10/1～10/31) 馬産地日高活性化 PR 事業(浦和競馬場) (10/28～29) オールひだか うまうま marche(11/19～20) コーチャンフォー(札幌ミュンヘン大橋店)マルシェコーナーでのひだかフェア(12/12～1/14)	
十勝総合振興局	看板の設置	道道静内中札内線沿いの国立公園区域の入口付近に看板を設置(4月)。	
日高振興局	施設改修	アポイ岳登山口野営場のテントサイトのオートサイト化、標識改修を実施(3/17 日完成)。	
日高振興局	施設改修	日勝峠園地内の標識・駐車場の再整備等を実施(11月完成)。	
日高振興局	施設改修	襟裳岬園地整備に向けた委託設計を実施(3/23 完了)。	
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	啓発チラシの配布	国立公園利用マナー啓発も含めた「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう」(パンフレット)を作成(3/24 完成)。	
日高振興局	ゼロカーボンパーク登録に向けた調整	日高管内7町のゼロカーボンパーク登録に向けた調整(説明会実施(6月))。	
日高振興局	ガイド不足を補うデジタルコンテンツの造成	デジタルコンテンツを作成。日本語版については公開済み。多言語化版を公開。(9月)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	カード配布	十勝総合振興局と共同制作で、「日高山脈めぐるとかちカード配布開始。(5月)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	日高山脈PRパンフレット制作、モンベルフレンドエリア登録	十勝総合振興局・日高総合振興局と連携し、日高山脈PRパンフレットを制作、モンベルフレンドエリアの登録の継続 PR を実施。	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	催事イベント	モンベルフレンドフェア(横浜市)に出展。(7/7～12)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	シンポジウム	日高山脈襟裳十勝国立公園指定一周年記念シンポジウムを浦河町で開催。(7/12)	

構成員名	取組	概要	再掲
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	モニターツアー	「日高山脈モニターツアー」を帯広市・芽室町・中札内村で実施 (9/13～15)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	登山会	「第2回芽室岳登山会」を清水町で実施。(9/20)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	ガイド育成イベント①	「国立公園周辺の観光とは?『日高山脈』テーマの観光をともに考えよう」を帯広市で実施。(11/6)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	ガイド育成イベント②	「冬の日高山脈と十勝の魅力を体感しよう～プロガイドから学ぶスノーシューウォーク体験～」を清水町で実施。(2/1)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	広域ツアー造成に向けた取り組み	広域でのモニターツアー実施(韓国をターゲットに)ガイド人材発掘イベント	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	日高山脈マップ配布	十勝総合振興局・日高振興局と共同制作の「日高山脈マップ」完成・配布開始(2/13)	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	日高山脈写真パネル展	環境省及び十勝毎日新聞社の製作した日高山脈の写真パネルを借用し、十勝管内の6市町村で順番にパネル展を開催	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	子ども自然体験プログラム 「日高山脈襟裳十勝国立公園 子どもパークレンジャー 2025 一番身近な「国立公園」に行こう!」	環境省の子どもパークレンジャーと共催で、小学5、6年生を対象に札内川園地を会場として自然体験活動を実施	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	パンフレット「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう!(改訂版)」	「日高山脈襟裳十勝国立公園」についてわかりやすく説明したパンフレット(改訂版)を作成。	
帯広市	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念事業「市役所の屋上から日高山脈を楽しもう!&VR大パノラマ体験」及び「日高山脈襟裳十勝国立公	日高山脈襟裳十勝国立公園の指定から1周年を記念し、普段は入れない市役所屋上から帯広の街並みと日高山脈の眺望体験及びVRによるパノラマ映像体験により、国立公園のPRを実施。	

構成員名	取組	概要	再掲
	園 360°大パノラマ体験コーナー」		
日高町	登山口トイレ及び携帯トイレ回収BOX管理運営(日高山脈登山会議事業)	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に簡易トイレ及び携帯トイレ回収BOXの管理運用を実施。 (運用期間 令和7年6月2日～9月30日) 携帯トイレ回収数 チロロ岳登山口2個 北戸蔦別岳登山口 72 個	○
日高町	町広報「ひだか」掲載	国立公園1周年を普及啓発するための記事を町広報「ひだか」8月号に掲載した。	
日高町	日高高校生考案「国立公園指定記念ゆるキャラ」の活用	町立日高高校生が考案したゆるキャラ「日彗」の缶バッジを作り、ひだか樹魂まつり来場者に配布。 また国立公園を町内の子ども等に知っていただくために多言語QRコードを記載したクリアファイルを町内学校等に配布。	
日高町	ホッカイドウ競馬「国立公園のまち日高町特別」	国立公園のまちを記念したレースを門別競馬場で行った。	
日高町 (清水町等と共催)	国立公園指定1周年記念「第2回芽室岳登山会」(日高山脈登山会議事業)	国立公園指定1周年記念して、日高町、清水町、芽室町にまたがる芽室岳登山会を実施。42名(9/20)	
日高町	国立公園「北日高岳」登山会(日高山脈登山会議事業)	国立公園内で登山道のある最も低い山「北日高岳」の登山会を日高山脈登山会議主催で実施。18名(10/10)	
日高町	日高山脈博物館「日高山脈ネイチャーセミナー」	日高山脈ネイチャーセミナー2025 自然科学講座「日高の生き物観察会」を実施。23名(7/6) 日高山脈ネイチャーセミナー2025 岩石地質講座「おたから石と岩石図鑑の作り方」を実施。10名(8/9) 日高山脈ネイチャーセミナー2025 自然科学講座「秋の森探検」を実施。28名(10/13)	
日高町	国立公園日高町協議会	観光庁「多言語解説文作成事業」採択に伴う支援、環境省「利用抛	

構成員名	取組	概要	再掲
		点計画作成事業」採択に伴う計画策定、自然体験活動促進計画策定に向けた検討などを官民一体となって取り組んだ。	
平取町	《日高山脈襟裳十勝国立公園指定一周年記念》石丸謙二郎トークショー&幌尻岳記念登山	日高山脈襟裳十勝国立公園指定一周年を記念して「世界の車窓から」のナレーションでおなじみの石丸謙二郎氏のトークショー&記念幌尻岳登山の開催。 トークショーはゲストに登山家、野村良太氏を迎え、両名によるポロシリの魅力などのトークセッションを実施。 翌日、抽選で選ばれた5名と、石丸謙二郎氏、野村良太氏が平取町山岳会とともに幌尻岳の記念登山も実施。	
新冠町	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」	新冠町役場1階ロビーにて展示。	
新冠町	看板・旗・パンフレット等の展示	新冠町役場1階ロビーにて展示	
新冠町	物販等でのパンフレット掲示	年に数回競馬場や、札幌のチカホで行われる物販でパンフレット等を掲示	
浦河町	楽古岳登山ワークショップ	楽古登山(山荘)泊のワークショップを企画し募集するも催行人数に達せず未催行(10/25~26)	
浦河町	インバウンドプロモーション	とんがりロード観光協議会による、国立公園エリアを含んだツアー造成のため、台湾・タイへの現地旅行会社への直接セールスを実施。	
浦河町	国立公園モデルプラン造成と撮影技術向上を目的としたワークショップ	上級向けの登山だけでなく国立公園の楽しみ方を9月22日~25日にかけて、北海道カメラ女子の会と連携し、国立公園やその周辺の日高山脈がもたらす食や景観、産業文化といった魅力を写真技術向上のワークショップを通じて、写真媒体による登山以外の楽しみ方モデルプランを造成し、とんがりロード観光協議会のWebサイト等に掲載し国立公園の魅力を訴求。	
様似町	ヒダカトレイルデイズ	「日高山脈襟裳十勝国立公園」の誕生を契機に始まったアポイ山	

構成員名	取組	概要	再掲
		麓で開催する自然環境保全とトレイルカルチャの発展を目的としたアウトドアイベント。(2年目)	
様似町	アポイ岳 DE スタンプラリー	「山の日」の時期に合わせた参加無料の登山コースを巡りスタンプラリーを毎年行っている。	
えりも町	キャッシュレス決済キャンペーン事業	観光客増加が見込まれることから、町内事業者のキャッシュレス導入の促進等を目的にポイント還元キャンペーンを実施。	
えりも町	灯台公園木製ベンチ取替事業	景観の改善及び町民や観光客への満足度向上を目的に、灯台公園にある老朽化したベンチ 4 箇所の修繕を実施。	
えりも町	花壇整備事業	国立公園化に伴う景観の改善として、灯台公園前の花壇整備を実施	
新ひだか町	日高山脈襟裳十勝国立公園案内看板作成設置	静内川に架かるシベチャリ橋の上2箇所に、山頂標識看板(山岳名称(日本語・英語)及び標高を表記)を作成、設置。	
新ひだか町	日高山脈襟裳十勝国立公園誕生記念展	日高山脈襟裳十勝国立公園誕生を記念し、前年開催と同様に環境省新ひだか自然保護官事務所と新ひだか町が連携し、観光客が多くなるしずない桜まつりやゴールデンウィークに合わせ国立公園の魅力が豊富に伝わる写真展を開催。 観光情報センター会議室を使用し、環境省が所有する日高山脈などの写真を展示するほか、自然保護官事務所が在席時には、国立公園のVR映像が視聴できる機器を設置。 また写真展に合わせ、平取養護ペテカリ分校による展示「日高山脈の森をこの場所につくろう！」～中札内高等養護学校生が日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力を再現～を開催し、森や動物などをイメージした展示物を設置。(4/24-5/6)	
新ひだか町	ピセナイ山町民登山大会開催協力	国立公園誕生を記念して、登山大会を実施。 講師として、新ひだか自然保護官事務所の草留氏を招き、国立公園の魅力などの講話を実施。(5/18) 主催: 静内山岳会 後援: 新ひだか町体育協会	
新ひだか町	ペラリ山町民登山大会開催協	登山大会を実施。講師として、新ひだか自然保護官事務所の城氏	

構成員名	取組	概要	再掲
	力	を招き、国立公園の魅力などの講話を実施。(10/19) 主催: 静内山岳会 協賛: 新ひだか町 後援: 新ひだか町体育協会	
芽室町	日高山脈お絵描きイベント	子どもを対象とし、環境省職員による「日高山脈出前講座」と、施設の窓ガラスに日高山脈に関連するお絵描きを行うイベントを組み合わせて実施。町内2施設(ふるさと歴史館ねんりん、ゆないとべーす)で実施。(31人参加)(8/11,12)	
芽室町	日高山脈襟裳十勝国立公園1周年記念フォーラム	町内外の方の十勝エリア及び芽室町への郷土愛の醸成や自然保護への関心増加を目的としたフォーラムを実施。環境省の自然保護官による講演、東京カメラ部株式会社代表取締役塚崎氏と町内のアグリ Youtuber 栗野氏によるトークセッション、日高山脈の魅力を写真と絵を用いながらパネラー8名が語る企画を実施した。(76人参加)(1/24)	
中札内村	日高山脈専門員の配置	中部日高山脈登山口に位置する日高山脈山岳センターへ登山知識・登山経験のある日高山脈専門員を2名配置した。 (中部日高山脈の山岳情報発信及び情報提供)	
中札内村	安全登山及び環境保全の啓発活動	「山の日」に合わせて札内川ヒュッテ付近(カムイエクウチカウシ山及びコイカクシュ札内岳登山口)で、日高山脈の自然環境に配慮してもらう等を目的に登山者に対して携帯トイレの携行・配布を呼び掛けた。(8/11)	○
中札内村	国立公園化1周年記念「村民登山会(アポイ岳)」及び「山の日音楽祭」	日高山脈の自然を活かした体験や日高山脈の希少な植物にも関心を持ってもらうため、アポイ岳登山を実施した。 また、日高山脈の魅力発信や北海道警察とともに安全登山の啓発イベント(音楽祭)、写真展、VR 体験等を開催した。	
中札内村	アウトドア・キャンプ事業	中札内村及び新ひだか町の小学生を対象に自然体験活動等を通じて日高山脈や自然、環境への関心を持ってもらう事業を実施した。(会場は札内川園地)	
中札内村	各種 PR 事業	羽田空港でのプロモーション事業(JAL と連携)や日高山脈のビュ	

構成員名	取組	概要	再掲
		ースポット等をめぐる十勝中札内グルメライド事業を実施した。	
大樹町	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念「日高山脈写真パネル展」	国立公園が指定から1周年を記念し、生涯学習センター(アートギャラリー)で44枚を展示。日高山脈の四季折々の魅力を実感。(7/26～8/4)	
大樹町	もいわ山森林公園展望デッキ完成	日高山脈が内陸部から海まで延々と連なる雄大さを一望できる新たな展望デッキを設置し、本町の新たな魅力と観光資源の創出を目指す。	
広尾町	大丸山頂上日高山脈展望台整備	市街地にある大丸山の頂上に、日高山脈を一望できる展望台を整備。令和7年9月より供用を開始。	
アポイ岳ファンクラブ	アポイドリームプロジェクト	アポイ岳の高山植物の育苗実験を様似中学校と行った。 実施種類:エゾコウゾリナ、キキョウ	
アポイ岳ファンクラブ	「アポイの日」登山会	アポイの標高にちなんで、登山会を実施した(8/10)。	
アポイ岳ファンクラブ	ご来光登山会	毎年、様似山岳会と共催により実施(1/1)	
十勝観光連盟	国立公園 VR を活用したプロモーション①	ツーリズム EXPO ジャパン2025愛知・中部北陸(9月・名古屋市)、北海道観光情報交換会(10月・福岡市)において VR を活用し旅行会社、観光事業者向けにVRを活用したプロモーションを実施した。	
十勝観光連盟	国立公園 VR を活用したプロモーション②	東北海道連携プロモーション事業として道東道延伸(至釧路)に伴い、道東道連絡協議会など関係機関と釧路及び札幌にて(8月実施)において一般消費者向けにVRを活用したプロモーションを実施した。	
十勝観光連盟	広域連携事業への支援	十勝・日高山脈観光連携協議会(芽室町、帯広市、清水町、中札内村、大樹町、広尾町)が主催する周辺エリアマップ制作事業を支援した。	
日高管内観光連盟	HIDAKA ドライブマップのリニューアル	日高管内のドライブマップをリニューアルし、国立公園について追記し、管内外の観光施設等へ配布した。	

(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署	日高自然の森自然観察教育林の施設等現地確認	国立公園普通地域内のレクリエーションの森について、レク森協議会構成団体と日高北部森林管理署で現地の樹名板、解説板、歩道等を確認(5月)	○
日高北部森林管理署	森林保全巡視及び使用貸付地の確認	額平ルート・幌尻岳周辺について巡視(7月) 千呂露川二岐沢コース北戸蔦別岳周辺巡視(9月)	○
日高北部森林管理署	鷗川・沙流川河岸浸食等調査	鷗川沙流川河川事務所が実施する同調査のために飛行した北海道開発局の災害対策ヘリ「ほっかい」に同乗し、国立公園区域を含む国有林野を上空から確認(6月)	○
日高北部森林管理署	国有林専用林道のゲートの開錠	登山口へのアクセス道となっているチロロ林道及びパンケヌシ林道について、夏山期間はゲートを開錠 (一般道ではないことの注意喚起のため門扉は閉鎖)	○
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と共に来賓として参加し、植樹指導等を実施。(6/18 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(中学生植樹)	中学生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を実施。(6/25 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を実施。(9/10 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明し、研修を実施。(9/29 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を実施。(10/27 えりも町内)	○
北海道運輸局	令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園における「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈の環境保全を持続可能なものにするを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するため、現地基礎調査、地域セミナー、運営体制の検討等を実施。(2/6)	○

構成員名	取組	概要	再掲
北海道環境局	VR ゴーグルの貸出し	来訪者に自然環境の保全・保護に関心を持っていただけるよう、日高山脈ならではの山岳景観の魅力を紹介・表現した VR ゴーグルを製作し、町有施設への常設や、イベント等での貸出しを実施。	○
北海道環境局	「日高山脈襟裳十勝国立公園 小さなインタープリテーション 計画～試行版～」の検討	日高山脈襟裳十勝国立公園ならではの価値・魅力を伝える“物語（ストーリー）”を伝えるインタープリテーション全体計画の検討を進め、ワークショップを2回開催(12/18,2/3)。日高山脈襟裳十勝国立公園インタープリテーション計画の試行版として、北部地域を対象とした計画を作成。	○
北海道環境局	広報：日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」の開催	本公園の魅力的な自然、文化等の普及啓発を目的として開催。合計 186 の応募作品の中から、計 16 作品の受賞作品を選出。	○
北海道環境局	広報：指定1周年記念フォトコンテスト受賞作品の展示(新宿御苑)	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」の受賞作品について、新宿御苑にて展示会を開催(11/18～12/18)。	○
北海道環境局	広報：指定1周年記念フォトコンテスト受賞作品の展示(道内)	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」の受賞作品について、日高管内・十勝管内の8会場にて展示会を開催(1/17～)。	○
北海道環境局	普及啓発：指定1周年記念「日高山脈お絵かきイベント」(主催：芽室町)への協力	国立公園の指定1周年を記念して開催された「日高山脈お絵描きイベント」での講師対応(8/11,12)	○
北海道環境局	普及啓発：子どもパークレンジャー事業	「日高山脈襟裳十勝国立公園子どもパークレンジャー2025 一番身近な「国立公園」にいこう！」を開催し、子どもたちに自然保護の大切さや自然とのつきあい方、また生き物に対する思いやりの心など、豊かな人間性を育んでもらうためのイベントを開催(8/20) ※日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会と共催	○
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局：北海道環境局)	登山道部会の設置	登山道の適正利用に関する事項並びに登山道及びその周辺環境の保全に関する事項等を検討するため、登山道部会を設置	○

構成員名	取組	概要	再掲
		(R7.5)。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン」の決定	国立公園の厳正な保護及び適正な利用の推進を図るため、国立公園としてのビジョン(あるべき姿、目指すべき将来像)を決定(R7.8)。	○
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園夏山登山5つの心得」の決定	日高山脈の登山をされる際に最低限守っていただきたいものとして「5つの心得」を作成(R7.5)。	○
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～2025年度版～」の検討	登山利用をするに当たって自主的な行動判断をするための目安として「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード」の作成に向けた検討を進めた。	○
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念トークセッション	2名の自然保護官が日高山脈襟裳十勝国立公園の特徴や魅力について語るイベントを実施(6/25、道庁本庁舎)。	○
日高振興局 十勝総合振興局	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念シンポジウム	探検家・作家の角幡唯介氏による基調講演のほか、パネルディスカッションを実施(7/12、浦河町総合文化会館)。	○
十勝総合振興局	環境教育ワークショップ	環境教育ワークショップを実施(11月)。	○
日高振興局	体験型環境教育「なないろパークレンジャー」	小学生を対象に、コレクションカード等を活用した環境教育に係る学習意欲の向上、野外活動への参加促進を図る体験型環境教育を実施(7月～)。	○
日高振興局 十勝総合振興局	マップ、パンフレットの作成	「日高山脈マップ」、国立公園の周知・理解促進に向けたPRパンフレットを作成。 「日高山脈マップ」:令和8年1月完成。 「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう」:令和8年3月完成。 各町の関係各所、道の駅などで配布	○
十勝総合振興局	看板の設置	道道静内中札内線沿いの国立公園区域の入口付近に看板を設置(4月)。	○
日高振興局	施設改修	アポイ岳登山口野営場のテントサイトのオートサイト化、標識改修を実施(3/17日完成)。	○
日高振興局	施設改修	日勝峠園地内の標識・駐車場の再整備等を実施(11月完成)。	○

構成員名	取組	概要	再掲
日高振興局	施設改修	襟裳岬園地整備に向けた委託設計を実施(3/23 完了)。	○
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	啓発チラシの配布	国立公園利用マナー啓発も含めた「日高山脈襟裳十勝国立公園を 知ろう」(パンフレット)を作成(3/24 完成)。	○
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	カード配布	十勝総合振興局と共同制作で、「日高山脈めぐるとかちカード配布 開始。(5月)	○
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	シンポジウム	日高山脈襟裳十勝国立公園指定一周年記念シンポジウムを浦河 町で開催。(7/12)	○
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	日高山脈マップ配布	十勝総合振興局・日高振興局と共同制作の「日高山脈マップ」完 成・配布開始(2/13)	○
日高山脈襟裳十勝国立公園・十 勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	日高山脈写真パネル展	環境省及び十勝毎日新聞社の製作した日高山脈の写真パネルを 借用し、十勝管内の6市町村で順番にパネル展を開催	○
日高山脈襟裳十勝国立公園・十 勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	子ども自然体験プログラム 「日高山脈襟裳十勝国立公園 子どもパークレンジャー2025 一番身近な「国立公園」に行 こう！」	環境省の子どもパークレンジャーと共催で、小学5、6年生を対象 に札内川園地を会場として自然体験活動を実施	○
日高山脈襟裳十勝国立公園・十 勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	パンフレット「日高山脈襟裳十 勝国立公園を知ろう！(改訂 版)」	「日高山脈襟裳十勝国立公園」についてわかりやすく説明したパン フレット(改訂版)を作成。	○
帯広市	十勝幌尻岳登山口看板設置	十勝幌尻岳登山口に「夏山登山の5つの心得」の内容を表示した看 板を設置。	○
日高町	登山口トイレ及び携帯トイレ回 収BOX管理運営(日高山脈 登山会議事業)	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に簡易トイレ及び携帯ト イレ回収BOXの管理運用を実施。(6/2～9/30) 携帯トイレ回収数 チロロ岳登山口2個 北戸蔦別岳登山口72個	○
日高町	登山道点検(日高山脈登山会 議事業)	①北日高岳登山道現況調査(日高自然の森自然観察教育林管理 運営協議会連携事業)(5/27)	

構成員名	取組	概要	再掲
		②北戸蔦別岳登山道点検(6/2・6/15) ③チロロ岳登山道現況調査(6/10)	
日高町	日高山脈博物館「日高山脈ネイチャーセミナー」	日高山脈ネイチャーセミナー2025 自然科学講座 「日高の生き物観察会」を実施。23 名(7/6) 日高山脈ネイチャーセミナー2025 岩石地質講座 「おたから石と岩石図鑑の作り方」を実施。10 名(8/9) 日高山脈ネイチャーセミナー2025 自然科学講座 「秋の森探検」を実施。 28 名(10/13)	○
日高町	国立公園日高町協議会	観光庁「多言語解説文作成事業」採択に伴う支援、環境省「利用拠点計画作成事業」採択に伴う計画策定、自然体験活動促進計画策定に向けた検討などを官民一体となって取り組んだ。	○
新冠町	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」	新冠町役場 1 階ロビーにて展示。	○
浦河町	楽古山荘運營業務	楽古山荘の建屋の簡易な維持補修及び周辺の草刈りなどの環境整備を委託により実施(6～10月)	
浦河町	オロマップキャンプ場管理運營業務	年間(4～3 月)を通じて国立公園周辺のオロマップキャンプ場の建屋、設備の簡易的な維持補修及び草刈りなどの環境整備を委託により実施	
様似町	ヒダカトレイルデイズ	「日高山脈襟裳十勝国立公園」の誕生を契機に始まったアポイ山麓で開催する自然環境保全とトレイルカルチャの発展を目的としたアウトドアイベント。(2年目)	○
えりも町	灯台公園木製ベンチ取替事業	景観の改善及び町民や観光客への満足度向上を目的に、灯台公園にある老朽化したベンチ 4 箇所の修繕を実施。	○
えりも町	花壇整備事業	国立公園化に伴う景観の改善として、灯台公園前の花壇整備を実施	○
新ひだか町	ピセナイ山町民登山大会開催協力	国立公園誕生を記念して、登山大会を実施。 講師として、新ひだか自然保護官事務所の草留氏を招き、国立公	○

構成員名	取組	概要	再掲
		園の魅力などの講話を実施。(5/18) 主催: 静内山岳会 後援: 新ひだか町体育協会	
新ひだか町	令和7年度ペテガリ岳環境整備ボランティア活動	日高山脈襟裳十勝公園内におけるペテカリ山荘からペテガリ岳までの登山道の点検・整備(笹刈りなど)、ペテカリ山荘維持管理作業(薪割りや清掃など)を実施。(8/30-31)	
新ひだか町	ペラリ山町民登山大会開催協力	登山大会を実施。講師として、新ひだか自然保護官事務所の城氏を招き、国立公園の魅力などの講話を実施。(10/19) 主催: 静内山岳会 協賛: 新ひだか町 後援: 新ひだか町体育協会	○
中札内村	日高山脈専門員の配置	中部日高山脈登山口に位置する日高山脈山岳センターへ登山知識・登山経験のある日高山脈専門員を2名配置した。 (中部日高山脈の山岳情報発信及び情報提供)	○
中札内村	安全登山及び環境保全の啓発活動	「山の日」に合わせて札内川ヒュッテ付近(カムイエクウチカウシ山及びコイカクシュ札内岳登山口)で、日高山脈の自然環境に配慮してもらう等を目的に登山者に対して携帯トイレの携行・配布を呼び掛けた。(8/11)	○
中札内村	国立公園化1周年記念「村民登山会(アポイ岳)」及び「山の日音楽祭」	日高山脈の自然を活かした体験や日高山脈の希少な植物にも関心を持ってもらうため、アポイ岳登山を実施した。 また、日高山脈の魅力発信や北海道警察とともに安全登山の啓発イベント(音楽祭)、写真展、VR 体験等を開催した。	○
中札内村	アウトドア・キャンプ事業	中札内村及び新ひだか町の小学生を対象に自然体験活動等を通じて日高山脈や自然、環境への関心を持ってもらう事業を実施した。(会場は札内川園地)	○
大樹町	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念「日高山脈写真パネル展」	国立公園が指定から1周年を記念し、生涯学習センター(アートギャラリー)で44枚を展示。日高山脈の四季折々の魅力を実感。(7/26~8/4)	○
大樹町	もいわ山森林公園展望デッキ完成	日高山脈が内陸部から海まで延々と連なる雄大さを一望できる新たな展望デッキを設置し、本町の新たな魅力と観光資源の創出を	○

構成員名	取組	概要	再掲
		目指します。	
広尾町	大丸山頂上日高山脈展望台整備	市街地にある大丸山の頂上に、日高山脈を一望できる展望台を整備。令和7年9月より供用を開始。	○
十勝山岳連盟	カムイエクウチカウシ山登山道パトロール、点検整備	5年前に設置した安全ロープの点検 巻道の迷い地点のテープ標識の点検	
十勝山岳連盟	芽室岳登山道整備	登山道の整備	
十勝山岳連盟	十勝側登山道パトロール	登山道パトロール	
アポイ岳ファンクラブ	アポイ岳登山道整備会	アポイ岳の登山道整備について、全道に呼びかけて実施。 (令和7年4月26日、10月12日)	
アポイ岳ファンクラブ	アポイドリームプロジェクト	アポイ岳の高山植物の育苗実験を様似中学校と実施。 実施種類:エゾコウゾリナ、キキョウ	○
アポイ岳ファンクラブ	ピンネシリ～アポイ岳登山道整備	縦走路整備を実施。(11月15日)	
十勝観光連盟	広域連携事業への支援	十勝・日高山脈観光連携協議会(芽室町、帯広市、清水町、中札内村、大樹町、広尾町)が主催する周辺エリアマップ制作事業を支援した。	○

令和 8 年度の各構成員の取組報告・予定

(1) 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署 北海道環境局	シマフクロウの保護増殖のための巣箱設置	北海道環境局と連携し、管内国有林野にシマフクロウの保護増殖のための巣箱を設置予定(10-11月頃)	
日高北部森林管理署	日高山脈森林生態系保護地域の一部の解説板の設置	国立公園普通地域内の同林分について、解説板を設置(6-9月)	
日高北部森林管理署	森林保全巡視及び使用貸付地の確認	幌尻岳周辺について巡視予定(7-8月頃、雨天延期又は中止)	
北海道運輸局	令和8年度日高山脈襟裳エリアにおける「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈の環境保全を持続可能なものにすることを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するため、令和7年度事業に引き続き、現地基礎調査、地域セミナー、運営体制の検討等を行う。	
北海道環境局	管理運営体制の強化	本公園の管理運営に携わる者として、帯広自然保護官事務所に登山道保全調整等専門員を配置。	
北海道環境局	エントランス標識の維持管理	本公園の域内に入りこむ主要な車道沿い7箇所に設置したエントランス標識を適切に維持管理する。	
北海道環境局	平取町、浦河町、様似町及びえりも町のゼロカーボンパーク登録	登録された4町の自然環境に配慮した脱炭素の取組や、エリア全体の脱炭素化の推進、サステナブルな観光地づくり、国立公園利用者への普及啓発等を既存予算等を活用しながら伴走支援。	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会(事務局:北海道環境局)	「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～2025年度版～」の決定	登山利用をするに当たって自主的な行動判断をするための目安として「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～2025年度版～」を作成し、周知を進める。	
日高町	登山口トイレ及び携帯トイレ回収BOX管理運営	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に携帯トイレ回収BOX管理運用(運用期間 6/2～)	
日高町	北日高岳地区利用拠点計画事業	国立公園日高町協議会が令和7年度に策定し、環境省が受理した北日高岳地区利用拠点計画に基づく整備事業について、令和8年度国立公園等資源整備事業費補助金(国立公園等利用拠点滞在	

構成員名	取組	概要	再掲
		環境等上質化事業)を申請し、採択。 (整備施設) 日高沙流川オートキャンプ場、日高山岳ビラパーク	
日高町	北日高岳地区多言語解説等整備計画事業	令和7年度の観光庁「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」実施地域に日高地域が採択され国費により作成された英語解説文を活用するために同年度に国立公園日高町協議会が策定した北日高岳地区多言語解説等整備計画に基づく整備事業について、国立公園等資源整備事業費補助金(国立公園等多言語解説等整備事業)を申請し、採択。 (整備施設) 日高沙流川オートキャンプ場、日高国際スキー場、日高山脈博物館、日高図書館郷土資料館	
平取町	アイヌ文化ポロシリ魅力向上事業	国立公園の指定を契機として、登山愛好者をはじめとする来訪者に対し、原生的な自然環境の保全と併せて、自然と共生してきたアイヌの精神文化に関する普及啓発および理解促進を担う人材の育成を目的とし、文化、自然の解説と併せて地域の魅力を発信するガイドの育成を図る。	
中札内村	日高山脈山岳センターの展示物見直し	施設の開館から 30 年以上が経過し、展示物の老朽化も見られ、国立公園となった今後も更に多くの方に「日高山脈の自然、魅力、登山史」を伝えていけるよう「日高山脈襟裳十勝国立公園(札内川園地エリア)利用拠点整備改善協議会」を立ち上げ、展示物の見直し等を進めていく。	
十勝自然保護協会	歴舟川におけるサクラマス遡上調査及び魚道調査	昨年度と同じく、遡上調査及び魚道調査を行う。本年度は 7/1 に重機による土砂流木の除去作業が行われている。	
十勝自然保護協会	広尾町におけるメガソーラー建設地の調査	昨年度と同様の観点で、現地調査・フンベの滝調査を予定している。	

(2)利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園			
構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署	日高山脈森林生態系保護地域の一部の解説板の設置	国立公園普通地域内の同林分について、解説板を設置(6-9月)	○
日高北部森林管理署	日高自然の森自然観察教育林の施設等現地確認	国立公園普通地域内のレクリエーションの森について、レク森協議会構成団体と日高北部森林管理署で現地の樹名板、解説板、歩道等を確認(6月)	
日高北部森林管理署	国有林専用林道のゲートの開錠	登山口へのアクセス道となっているチロロ林道及びパンケヌシ林道について、夏山期間はゲートを開錠(一般道ではないことの注意喚起のため門扉は閉鎖)	
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と共に来賓として参加し、植樹指導等を行った。(5/26 えりも町内)	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(中学生植樹)	中学生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を行う。(6月予定 えりも町内)	
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明し、研修を行う。(9月予定 えりも町内)	
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を行う。(9月予定 えりも町内)	
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を行う。(10月予定 えりも町内)	
北海道運輸局	令和8年度日高山脈襟裳エリアにおける「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈の環境保全を持続可能なものにすることを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するため、令和7年度事業に引き続き、現地基礎調査、地域セミナー、運営体制の検討等を行う。	○

構成員名	取組	概要	再掲
北海道環境局	登山者カウンター及び自動撮影カメラの設置	登山道における人の往来状況等を把握し、今後のクマ対応のあり方の検討及び注意喚起等に資する基礎的な情報を収集することを目的として、本公園内2箇所に登山者カウンター及び自動撮影カメラを設置。	
北海道環境局	VR ゴーグルの貸出し	来訪者に自然環境の保全・保護に関心を持っていただけるよう、日高山脈ならではの山岳景観の魅力を紹介・表現した VR ゴーグルを製作し、町有施設への常設や、イベント等での貸出しを実施。	
北海道環境局	「日高山脈襟裳十勝国立公園インタープリテーション計画」の検討	日高山脈襟裳十勝国立公園ならではの価値・魅力を伝える“物語（ストーリー）”を伝えるインタープリテーション全体計画の検討を進め、令和8年度中に完成予定。	
北海道環境局	広報：指定1周年記念フォトコンテスト受賞作品の展示（道内）	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」の受賞作品について、展示会を開催。	
北海道環境局	広報：指定1周年記念フォトコンテスト受賞作品を使用したオリジナルグッズ（ポストカード）の製作	本公園ならではの魅力を伝えることを目的に開催したフォトコンテストの受賞作品を使用して製作したポストカードにより、その魅力を広く伝える。	
北海道環境局	普及啓発：子どもパークレンジャー事業	子どもパークレンジャー事業により、子どもたちに自然保護の大切さや自然とのつきあい方、また生き物に対する思いやりの心など、豊かな人間性を育んでもらうためのイベントを開催予定。	
北海道環境局	普及啓発：山岳景観の魅力を表現したオリジナルグッズ（クリアファイル）の製作	日高山脈ならではの山岳景観の魅力を表現したクリアファイルにより、登山道及びその周辺環境の保全が図られるよう、適正利用に関する普及啓発を図る。	
北海道環境局	普及啓発：「第53回ピョウタンの滝やまべ放流祭」（主催：中札内村観光協会）への協力	「第53回ピョウタンの滝やまべ放流祭」で実施する日高山脈〇×クイズ等の講師対応により、本公園の自然環境等について子どもたちへの普及啓発を図る。（7/5）	
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会（事務局：北海道環境局）	「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～」	登山利用をするに当たって自主的な行動判断をするための目安として「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～202	

構成員名	取組	概要	再掲
	2025 年度版～」の決定	5年度版～」を作成し、周知を進める。	
日高振興局	体験型環境教育 「なないろパークレンジャー」	小学生を対象に、コレクションカード等を活用した環境教育に係る学習意欲の向上、野外活動への参加促進を図る体験型環境教育を実施(4月～)。	
十勝総合振興局	国立公園セミナーの開催	十勝地域の豊かな自然環境の周知、国立公園の適正利用や環境保全意識の醸成のためセミナーを実施予定(秋頃)。	
十勝総合振興局	環境教育ワークショップ	講師との対話型学習や模型展示など体感しながら学ぶ環境教育ワークショップを実施予定(11月)。	
十勝総合振興局	巡回パネル展	国立公園の成り立ちや動植物の解説、見どころスポットなどを掲載したパネル展を実施予定(夏頃)。	
十勝総合振興局	インスタレーション作品展示	中札内高等養護学校生が作成した日高山脈の雄大な自然を題材にした作品展示を実施予定(10月下旬 JR 帯広駅、11月下旬 帯広空港)。	
日高振興局 十勝総合振興局	マップ、パンフレットの活用	「日高山脈マップ」を活用したプロモーションを実施。「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう」を増刷、配布予定。	
日高振興局	SNS を活用した情報発信	日高山脈襟裳十勝国立公園に係るイベントや地域の魅力等を公式 SNS「ナナイロひだか」(X、Facebook、Instagram)で情報発信。	
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	ツーリズム EXPO ジャパン2026	日高山脈の魅力等を旅行業界、一般消費者に向け PR 予定(9/24～27日、東京都)。	
日高振興局	各種イベント・事業での国立公園化に係る展示	以下の展示を実施予定 ・ひだかフェア in どさんこプラザ札幌店(6/24～6/30) ・北海道ハイウェイ Show Area 2026in 噴火湾パノラマパーク(八雲)(7/18～19) ・ひだかフェア in 札幌競馬場(8/29～30) ・北海道まるごとフェア(10月中旬、東京都)	

構成員名	取組	概要	再掲
		・札幌チカホイベント(11/18～19) ・日高フェア(ホテルライフオート札幌)(7/1～8/31)	
十勝総合振興局	啓発品の配布	各種イベント等において啓発品を配布予定(9月)。	
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	パネル展	道庁本庁舎1F で、日高山脈襟裳十勝国立公園や関係市町村のPRを含むパネル展を実施予定(7/16～7/22)。	
日高振興局	施設改修	アボイ岳登山口野営場の炊事棟を改修予定。	
日高振興局	施設改修	日勝峠園地内の園路を改修予定。	
日高振興局	施設改修	襟裳岬園地の標識や柵等を改修予定。	
北海道庁 日高振興局 十勝総合振興局	啓発チラシの配布	国立公園利用マナー啓発も含めた「日高山脈襟裳十勝国立公園を知ろう」(パンフレット)を配布。	
十勝総合振興局	看板の設置	日高山脈襟裳十勝国立公園の豊かな自然環境を紹介する解説看板を設置予定 設置予定箇所:フンベの滝(広尾町)、ピョウタンの滝(中札内村) (令和8年10月)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	冊子・各種啓発活動	既存のPR パンフレット(冊子)、動画等の効果的な活用(各種啓発活動)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	モンベルフレンドエリア	モンベルフレンドエリアの継続登録(4/1)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	催事イベント	10/3-4 モンベルフェア(横浜市)への参加	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	グッズ制作	6 自治体共通グッズの検討等	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	連携強化	日高地域との連携強化(イベント等への参加などを検討・実施)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	環境省との連携	環境省との連携「インタープリテーション計画」策定協力 *日高山脈隣接 13 自治体による「日高山脈の自然・文化・歴史などの資源を的確に理解し、その価値を来訪者にどのように伝えて	

構成員名	取組	概要	再掲
		いくつかを体系的にまとめた計画	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	国交省との連携	国交省との連携自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」への協力 *旅行者を誘客する手段として、長い距離の道を歩くイベント(R7は日高地域で実施)	
十勝・日高山脈観光連携協議会 (事務局:芽室町)	その他関係機関等	観光事業者等との連携・情報交換・観光コンテンツ把握等	
日高山脈襟裳十勝国立公園・十勝環境保全委員会(事務局:帯広市)	子ども自然体験プログラム「日高山脈襟裳十勝国立公園子どもパークレンジャー2026」(仮)	十勝管内小学生を対象に札内川園地を会場として自然体験活動を実施する。	
帯広市	日高山脈襟裳十勝国立公園指定2周年記念事業「市役所の屋上から日高山脈を楽しもう!&VR大パノラマ体験」及び「日高山脈襟裳十勝国立公園360°大パノラマ体験コーナー」	日高山脈襟裳十勝国立公園の指定から2周年を記念し、普段は入れない市役所屋上から帯広の街並みと日高山脈の眺望体験及びVRによるパノラマ映像体験により、国立公園のPRを行う。	
日高町	登山口トイレ及び携帯トイレ回収BOX管理運営	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に携帯トイレ回収BOX管理運用(運用期間 6/2～	○
日高町	国立公園指定2周年記念「第3回芽室岳登山会」	国立公園指定2周年記念して、日高町、清水町、芽室町にまたがる芽室岳登山会を清水町等と共催で実施。 9/5 実施予定	
日高町	国立公園「北日高岳」登山会(日高山脈登山会議事業)	国立公園内で登山道のある最も低い山「北日高岳」の登山会を実施。 10/18 実施予定	
日高町	日高山脈博物館「日高山脈ネイチャーセミナー」	日高山脈ネイチャーセミナー2026 日高山脈がもたらした自然が豊富な日高地区及びその周辺で、学術的継続的な内容の事業を目指すことにより、町内外の方々に、	

構成員名	取組	概要	再掲
		日高の自然を学習してもらいながらも、自然と親しんでもらう目的で、開館当初から継続して開催している。小学生から大人まで、「日高の自然を いっぱい遊んで しみじみ学ぶ」をテーマに、開催予定。	
日高町	北日高岳地区利用拠点計画事業	国立公園日高町協議会が令和7年度に策定し、環境省が受理した北日高岳地区利用拠点計画に基づく整備事業について、令和8年度国立公園等資源整備事業費補助金(国立公園等利用拠点滞在環境等上質化事業)を申請し、採択。 (整備施設) 日高沙流川オートキャンプ場、日高山岳ビラパーク	○
日高町	北日高岳地区多言語解説等整備計画事業	令和7年度の観光庁「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」実施地域に日高地域が採択され国費により作成された英語解説文を活用するために同年度に国立公園日高町協議会が策定した北日高岳地区多言語解説等整備計画に基づく整備事業について、国立公園等資源整備事業費補助金(国立公園等多言語解説等整備事業)を申請し、採択。 (整備施設)日高沙流川オートキャンプ場、日高国際スキー場、日高山脈博物館、日高図書館郷土資料館	○
日高町	国立公園日高町協議会	「自然体験活動促進計画」の策定に向けて、市街地を含む山岳域の阿蘇くじゅう国立公園の阿蘇市を視察し、ワーキンググループで検討予定。 日高町面積の 4 割を占める国立公園の町民理解を深めるため、町民向け学習会を協議会学識経験者らの協力を得て、実施予定。	
平取町	アイヌ文化ポロシリ魅力向上事業	国立公園の指定を契機として、登山愛好者をはじめとする来訪者に対し、原生的な自然環境の保全と併せて、自然と共生してきたアイヌの精神文化に関する普及啓発および理解促進を担う人材の育成を目的とし、文化、自然の解説と併せて地域の魅力を発信するガイドの育成を図る。	○

構成員名	取組	概要	再掲
新冠町	日高山脈襟裳十勝国立公園 指定1周年記念フォトコンテス ト入賞作品巡回展	新冠町役場1階ロビーにて展示	
新冠町	看板・旗・パンフレット等の掲 示	新冠町役場1階ロビーにて展示	
新冠町	物販等でのパンフレット掲示	年に数回競馬場や、札幌のチカホで行われる物販でパンフレットを 掲示	
浦河町	楽古岳登山ワークショップ	楽古登山(山荘)泊のワークショップを企画し募集予定	
浦河町	インバウンドプロモーション	とんがりロード観光協議会による、国立公園エリアを含んだツアー 造成のため、台湾・タイへの現地旅行会社への直接セールスのほ か、数社のFAMトリップを受入	
様似町	ヒダカトレイルデイズ	「日高山脈襟裳十勝国立公園」の誕生を契機に始まったアポイ山 麓で開催する自然環境保全とトレイルカルチャの発展を目的とした アウトドアイベント。(3年目)	
様似町	アポイ岳 DE スタンプラリー	「山の日」の時期に合わせた参加無料の登山コースを巡りスタンプ ラリーを毎年行っている。	
えりも町	キャッシュレス決済キャンペー ン事業	観光客が昨年に引き続き増加傾向にあることから、町内事業者の キャッシュレス導入の促進等を目的にポイント還元キャンペーンを 実施予定	
えりも町	花壇整備事業	国立公園化に伴う景観の改善として、灯台公園前の花壇整備を実 施	
新ひだか町	国立公園PRイベント(予定)	埼玉県越谷イオンレイクタウンにて、町の観光等のPR出展ととも に、国立公園の紹介PRを行う予定(7月中旬)	
新ひだか町	ペラリ山町民登山大会開催協 力 (10月下旬予定)	登山大会を実施。講師を招き、国立公園の魅力などの講話を実施 予定。 主催: 静内山岳会 協賛: 新ひだか町(予定) 後援: 新ひだか町体育協会(予定)	
芽室町	日高山脈国立公園化理解促	小学5年生の総合学習(6時間)で、写真を通した日高山脈の魅力	

構成員名	取組	概要	再掲
	進事業	理解増進授業を開催(9～11月予定)	
芽室町	ビジターセンター設置構想策定	令和10年度に芽室公園の Park-Pfi 施設内に日高山脈の魅力発信及び開設予定であるビジターセンターの設置構想を策定予定	
中札内村	日高山脈の価値を地域の人 が知り、守り、伝え、誇りとして 未来へつなぐ取組	村民中心の組織「日高山脈魅力発信サポーターズ」(村観光協会事務局)では、前年度に引き続き北海道大学山岳部と連携した村民登山会や国立公園内の札内川園地を活用した自然体験事業のほか講演等も実施する。	
広尾町	大丸山頂上日高山脈展望台 を活用した観光振興	令和7年9月より供用している大丸山頂上展望台を活用した交流人口増加を図るための取組実施を検討。	
アポイ岳ファンクラブ	アポイドリームプロジェクト	アポイ岳の高山植物の育苗実験を様似中学校と実施予定。 実施種類:エゾコウゾリナ、キキョウなど	
アポイ岳ファンクラブ	「アポイの日」登山会	アポイの標高にちなんで、8/10 に登山会を実施予定。	
アポイ岳ファンクラブ	ご来光登山会	毎年、様似山岳会と共催により実施予定(1/1)	
アポイ岳ファンクラブ	アポイの写真コンテスト	アポイ岳の自然を写した写真を募集する(5/30～10/31)	
アポイ岳ファンクラブ	インスタ「アポイ岳高山植物総 選挙」	アポイ岳の素晴らしさを広めていくため、Instagram等を活用し、アポイ岳の花たちの中で、人気投票を行う予定。	
アポイ岳ファンクラブ	チカホイベント「アポイ岳の自 然は今」	札幌の地下歩行空間で、アポイ岳の自然の素晴らしさなどを写真やミニ講演会、絵画等を通して PR 予定。	
十勝自然保護協会	歴舟川を中心にした「山・川・ 海」のつながりを考える野外イ ベント	本公園計画のビジョンにもある「山・川・海」のつながりの重要性について、そのすべてを有する大樹町のとくに歴舟川を中心に野外体験を加えたイベントを予定している。	
十勝観光連盟	各種プロモーションでの PR	ツーリズム EXPO ジャパン 2026、北海道観光情報交換会等のプロモーション活動の中で旅行会社、観光事業者、一般消費者向けに日高山脈襟裳十勝国立公園の周知・PR を実施する。	
十勝観光連盟	広域連携事業への支援	十勝・日高山脈観光連携協議会(芽室町、帯広市、清水町、中札内村、大樹町、広尾町)が主催する広域連携事業への支援。	
日高管内観光連盟	ポスター制作	アポイ岳等の国立公園を題材としたポスターを制作予定。	

構成員名	取組	概要	再掲
日高管内観光連盟	HIDAKA ドライブマップの増刷	令和7年度に国立公園について追記等リニューアルしたドライブマップを増刷する。	

(3)みんなで国立公園のことを考え、連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

構成員名	取組	概要	再掲
日高北部森林管理署	日高自然の森自然観察教育林の施設等現地確認	国立公園普通地域内のレクリエーションの森について、レク森協議会構成団体と日高北部森林管理署で現地の樹名板、解説板、歩道等を確認(6月)	○
日高北部森林管理署	森林保全巡視及び使用貸付地の確認	幌尻岳周辺について巡視予定(7-8月頃、雨天延期又は中止)	○
日高北部森林管理署	国有林専用林道のゲートの開錠	登山口へのアクセス道となっているチロロ林道及びパンケヌシ林道について、夏山期間はゲートを開錠(一般道ではないことの注意喚起のため門扉は閉鎖)	○
日高南部森林管理署	えりもワクワク森林づくり体験事業植樹祭	えりも町等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局長と共に来賓として参加し、植樹指導等を行った。(5/26 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(中学生植樹)	中学生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を行う。(6月予定 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	JICA 研修	JICA 研修生を対象にえりも国有林事業等の説明し、研修を行う。(9月予定 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	えりも地区中高一貫環境教育(高校生枝落とし)	高校生を対象に植樹を実施し、環境教育学習を行う。(9月予定 えりも町内)	○
日高南部森林管理署	えりも岬の緑を守る会・イキイキ森林づくり事業	えりも岬の緑を守る会等が主催するイベントへ毎年度、北海道森林管理局計画保全部長と共に来賓として参加し、枝落とし指導等を行う。(10月予定 えりも町内)	○
北海道運輸局	令和8年度日高山脈襟裳エリアにおける「来訪者が環境保全に貢献する仕組み」の構築に向けた検証事業	日高山脈の環境保全を持続可能なものにすることを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「ロングトレイル」の造成を検討するため、令和7年度事業に引き続き、現地基礎調査、地域セミナー、運営体制の検討等を行う。	○

構成員名	取組	概要	再掲
北海道環境局	VR ゴーグルの貸出し	来訪者に自然環境の保全・保護に関心を持っていただけるよう、日高山脈ならではの山岳景観の魅力を紹介・表現した VR ゴーグルを製作し、町有施設への常設や、イベント等での貸出しを実施。	○
北海道環境局	「日高山脈襟裳十勝国立公園 インタープリテーション計画」 の検討	日高山脈襟裳十勝国立公園ならではの価値・魅力を伝える“物語（ストーリー）”を伝えるインタープリテーション全体計画の検討を進め、令和8年度中に完成予定。	○
北海道環境局	広報：指定1周年記念フォトコンテスト受賞作品の展示（道内）	日高山脈襟裳十勝国立公園指定1周年記念フォトコンテスト「日高山脈とともに生きる」の受賞作品について、展示会を開催。	○
北海道環境局	広報：指定1周年記念フォトコンテスト受賞作品を使用したオリジナルグッズ（ポストカード）の製作	本公園ならではの魅力を伝えることを目的に開催したフォトコンテストの受賞作品を使用して製作したポストカードにより、その魅力を広く伝える。	○
北海道環境局	普及啓発：子どもパークレンジャー事業	子どもパークレンジャー事業により、子どもたちに自然保護の大切さや自然とのつきあい方、また生き物に対する思いやりの心など、豊かな人間性を育ててもらうためのイベントを開催予定。	○
北海道環境局	普及啓発：山岳景観の魅力を表現したオリジナルグッズ（クリアファイル）の製作	日高山脈ならではの山岳景観の魅力を表現したクリアファイルにより、登山道及びその周辺環境の保全が図られるよう、適正利用に関する普及啓発を図る。	○
北海道環境局	普及啓発：「第53回ピョウタンの滝やまべ放流祭」（主催：中札内村観光協会）への協力	「第53回ピョウタンの滝やまべ放流祭」で実施する日高山脈〇×クイズ等の講師対応により、本公園の自然環境等について子どもたちへの普及啓発を図る。（7/5）	○
日高山脈襟裳十勝国立公園協議会（事務局：北海道環境局）	「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～2025年度版～」の決定	登山利用をするに当たって自主的な行動判断をするための目安として「日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード～2025年度版～」を作成し、周知を進める。	
日高町	登山口トイレ及び携帯トイレ回収BOX管理運営	日高山脈チロロ岳及び北戸蔦別岳登山口に携帯トイレ回収BOX管理運用（運用期間 6/2～	○
日高町	登山道点検（日高山脈登山会	①北日高岳登山道現況調査（日高自然の森自然観察教育林管理	

構成員名	取組	概要	再掲
	議事業)	運営協議会連携事業) 6/10 実施 ②北戸蔦別岳登山道点検 6/8・6/14 実施 ③チロロ岳登山道現況調査 6/24 実施	
日高町	日高山脈博物館「日高山脈ネイチャーセミナー」	日高山脈ネイチャーセミナー2026 日高山脈がもたらした自然が豊富な日高地区及びその周辺で、学術的継続的な内容の事業を目指すことにより、町内外の方々に、日高の自然を学習してもらいながらも、自然と親しんでもらう目的で、開館当初から継続して開催している。小学生から大人まで、「日高の自然を いっぱい遊んで しみじみ学ぶ」をテーマに、開催予定。	○
平取町	アイヌ文化ポロシリ魅力向上事業	国立公園の指定を契機として、登山愛好者をはじめとする来訪者に対し、原生的な自然環境の保全と併せて、自然と共生してきたアイヌの精神文化に関する普及啓発および理解促進を担う人材の育成を目的とし、文化、自然の解説と併せて地域の魅力を発信するガイドの育成を図る。	○
浦河町	楽古山荘運營業務	6～10月における楽古山荘の建屋の簡易な維持補修及び周辺の草刈りなどの環境整備を委託により実施	
浦河町	オロマップキャンプ場管理運營業務	年間(4～3月)を通じて国立公園周辺のオロマップキャンプ場の建屋、設備の簡易的な維持補修及び草刈りなどの環境整備を委託により実施	
様似町	ヒダカトレイルデイズ	「日高山脈襟裳十勝国立公園」の誕生を契機に始まったアポイ山麓で開催する自然環境保全とトレイルカルチャの発展を目的としたアウトドアイベント。(3年目)	○
えりも町	花壇整備事業	国立公園化に伴う景観の改善として、灯台公園前の花壇整備を実施	○
新ひだか町	令和8年度ペテガリ岳環境整備ボランティア活動(9/5-6予定)	日高山脈襟裳十勝公園内におけるペテガリ山荘からペテガリ岳までの登山道の点検・整備(笹刈りなど)、ペテガリ山荘維持管理作業(薪割りや清掃など)を実施予定。	

構成員名	取組	概要	再掲
新ひだか町	ペラリ山町民登山大会開催協力 (10月下旬予定)	登山大会を実施。講師を招き、国立公園の魅力などの講話を実施予定。 主催：静内山岳会 協賛：新ひだか町(予定) 後援：新ひだか町体育協会(予定)	○
中札内村	日高山脈山岳センターの展示物見直し	施設の開館から 30 年以上が経過し、展示物の老朽化も見られ、国立公園となった今後も更に多くの方に「日高山脈の自然、魅力、登山史」を伝えていけるよう「日高山脈襟裳十勝国立公園(札内川園地エリア)利用拠点整備改善協議会」を立ち上げ、展示物の見直し等を進めていく。	○
中札内村	日高山脈の価値を地域の人 が知り、守り、伝え、誇りとして 未来へつなぐ取組	村民中心の組織「日高山脈魅力発信サポーターズ」(村観光協会事務局)では、前年度に引き続き北海道大学山岳部と連携した村民登山会や国立公園内の札内川園地を活用した自然体験事業のほか講演等も実施する。	○
十勝山岳連盟	カムイエクウチカウシ山 登山道パトロール、点検整備	5 年前に設置した安全ロープの点検 巻道の迷い地点のテープ標識の点検	
十勝山岳連盟	芽室岳登山道整備	登山道の整備	
十勝山岳連盟	十勝側登山道パトロール	登山道パトロール	
アポイ岳ファンクラブ	アポイ岳登山道整備会	アポイ岳の登山道整備について、全道に呼びかけを行う。 (4/4、11/7 予定)	
アポイ岳ファンクラブ	アポイドリームプロジェクト	アポイ岳の高山植物の育苗実験を様似中学校と実施予定。 実施種類：エゾコウゾリナ、キキョウなど	○
十勝自然保護協会	歴舟川におけるサクラマス遡 上調査及び魚道調査	昨年度と同じく、遡上調査及び魚道調査を行う。本年度は 7/1 に 重機による土砂流木の除去作業が行われている。	○
十勝自然保護協会	広尾町におけるメガソーラー 建設地の調査	昨年度と同様の観点で、現地調査・フンベの滝調査を予定してい る。	○
十勝自然保護協会	歴舟川を中心にした「山・川・ 海」のつながりを考える野外イ ベント	本公園計画のビジョンにもある「山・川・海」のつながりの重要さにつ いて、そのすべてを有する大樹町のとくに歴舟川を中心に野外 体験を加えたイベントを予定している。	○

構成員名	取組	概要	再掲
十勝観光連盟	広域連携事業への支援	十勝・日高山脈観光連携協議会(芽室町、帯広市、清水町、中札内村、大樹町、広尾町)が主催する広域連携事業への支援。	○

行動計画の作成について

アジア航測株式会社

(北海道環境局発注「令和8年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会等運営及び管理運営計画検討等業務」請負者)

目次

国立公園の公園計画と管理運営計画	2
管理運営計画の概要	4
管理運営計画作成要領	5
本公園の現状・課題・ビジョン	6
他公園での記載例	13
検討スケジュール	16

本資料のねらい

管理運営計画及び行動計画の概要について理解する。

ご意見いただきたいこと

行動計画に取組方策や役割分担を記載するにあたり、
「資料4(2) 行動計画骨子(たたき台)」の
【令和12(2030)年度までの取組方針(案)】 及び 【取組方策(案)】
について、意見出しをお願いします。

国立公園の公園計画と管理運営計画

公園計画

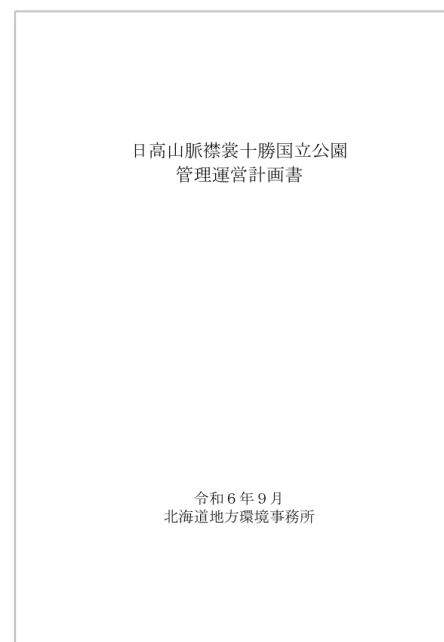
自然公園法第5条に基づき、国立公園の区域を指定する（公園指定書）とともに、自然公園法第7条に基づき、国立公園ごとに、当該公園内の自然の風景地の保護とその適正な利用を図るための規制に関する事項、公園事業に関する事項その他必要な事項について定めるもの。



R6年6月施行

管理運営計画

国立公園管理運営計画は、国立公園ごとに作成された公園計画に示す基本方針に記載されたビジョンの実現を地域の多様な関係者とともに図ること、また、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的として作成するもの。



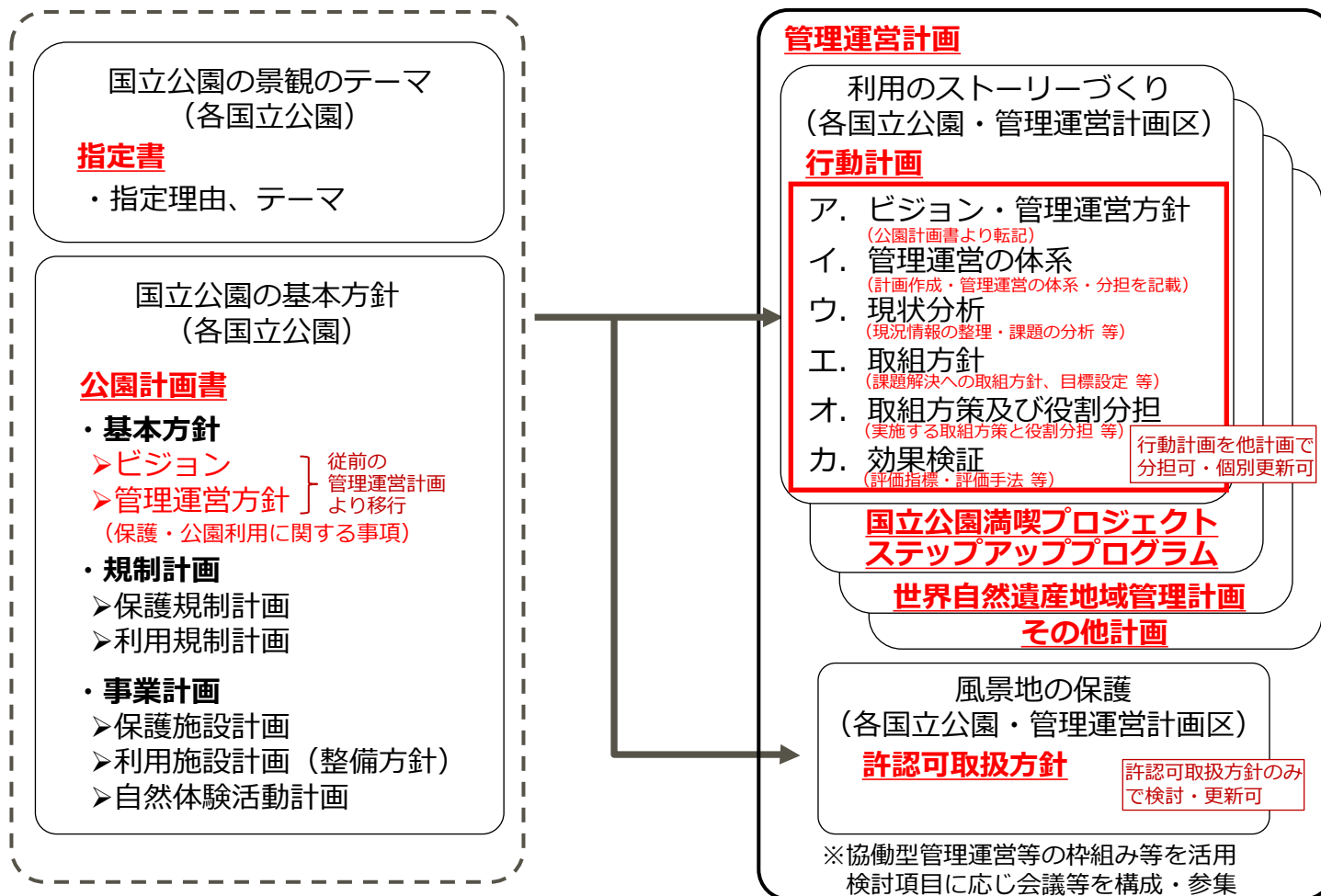
R6年9月施行
※一部のみ

2026年7月23日 令和8年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会幹事会（第1回）

国立公園の公園計画と管理運営計画

3

計画名称	公園計画	管理運営計画 (行動計画は他計画で代替可能)
作成主体	環境大臣 【審議会諮問】	地方環境局長 【各種地域協議会・検討会等】



管理運営計画の概要

1. 行動計画

ア 国立公園のビジョン・管理運営方針
(R7年度作成済み)

イ 管理運営の体系

ウ 現状分析
(ビジョン作成時に課題整理済み)

エ 取組方針

オ 取組方策及び役割分担

カ 効果検証
本協議会で議論し、
本年度素案を作成

2. 許認可等取扱方針

※行政手続法第2条第8号に
基づく審査基準、処分基準、
行政指導指針に該当

ア 許可・届出等取扱方針
①審査基準・処分基準
②配慮事項・指導方針等

イ 公園事業取扱方針
①審査基準
②指導方針・管理方針等

ウ その他の事務に係る取扱方針

エ 参考資料

3. その他

管理運営計画の変更理由や作成・変更の経緯、
関連する計画等、管理運営計画を参照する上
で必要な事項等

管理運営計画作成要領

国立公園管理運営計画作成要領（R4.4.1）

この作成要領により、これまでの管理運営計画（管理計画）から構成が大きく変わり、「行動計画」＋「許認可取扱方針」という構成になった。

⇒参考資料3 国立公園管理運営計画作成要領

国立公園管理運営計画作成要領

○国立公園管理運営計画作成要領

〔令和4年4月1日 環自国発第22040113号
各地方環境事務所長等宛 自然環境局長通知〕

第1 目的

国立公園管理運営計画（以下「管理運営計画」という。）は、国立公園ごとに作成された公園計画に示す基本方針（「国立公園に係る公園計画の作成等について」（令和4年4月1日付け環自国発第2204015号自然環境局長通知）別紙1「国立公園の公園計画作成要領」第4の1参照）に記載された国立公園の風致景観及び自然環境、利用状況等の公園ごとの特性を踏まえた公園の望ましい姿、公園が提供すべきサービス、公園の価値や保全・利用の目標をわかりやすく示したビジョン（以下「ビジョン」という。）の実現を地域の多様な関係者とともに図ること、また、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的として作成するものとする。

第2 管理運営計画の作成対象地域

管理運営計画の作成対象地域（以下「管理運営計画区」という。）は、一体性の高い国立公園の場合は国立公園全域とし、風致景観の特性（一体性又は類似性）及び社会的特性（地域の連携体制、利用の形態等）を踏まえ、国立公園を複数の地区に区分することが合理的であると認められる場合は、その地区ごとに作成するものとする。

第3 管理運営計画の構成と内容

管理運営計画は、行動計画及び許認可等取扱方針によって構成することとし、それぞれ、原則として次に掲げる事項について記載することとする。

(1) 行動計画

行動計画は、当該国立公園のビジョンの実現に向け、環境省が地域の多様な関係者とともに実施すべき取組方策及び役割分担について定めるものであり、次の項目を記載することとする。

ア 国立公園のビジョン・管理運営方針

公園計画の基本方針に示す国立公園のビジョン及び管理運営方針を記載する。また、管理運営計画区を構成する風致景観及び自然環境の概況、利用の概況、公園計画（規制計画及び事業計画）の概況を記載する。ビジョン及び管理運営方針は、必要に応じて管理運営計画区ごとに整理して記載する。

イ 管理運営の体系

525

複製禁止/「五訂自然公園実務必携」『自然公園法・施行令・施行規則三段対照表』〔2022〕中央法規出版

本公園の現状・課題・ビジョン

(1) 保護に関する事項

現状

高山生態系

- ・ 日高山脈の生物多様性を特徴づける固有種や隔離分布種が多く生息・生育
- ・ 気候変動の影響と考えられる植生遷移の進行により高山植物群落の衰退が進み、この影響でヒメチャマダラセセリの個体数の減少も続く
- ・ 市民団体による盗掘防止パトロールや登山者へのマナー啓発、地域ぐるみでの高山植物群落の保全に取り組む

森林生態系

- ・ 多様な群落タイプが認められる広大な森林生態系が存在する
- ・ 天然記念物であるクマゲラ、希少猛禽類であるクマタカやシマ魚類が豊富に生息する河川と、大径木を含む河畔林を好むシマフクロウが生息
- ・ フクロウなどの重要な生息地

河川生態系

- ・ 水生昆虫→サケ科魚類→大型猛禽類の食物連鎖が形成
- ・ 魚との競合及び捕獲圧等による生息域の縮小や生息数の減少が危惧洪水攪乱に依存する野生生物も生育・生息

海洋・海浜生態系

- ・ 海岸断崖に希少な植物、希少猛禽類などが生育・生息豊かな海を象徴する海生哺乳類(ゼニガタアザラシ)が生息
- ・ 魚介類や海藻類の漁労風景は夏の風物詩海水温上昇による水産物変化、海岸断崖の消失・改変が進行

課題

- 貴重な高山生態系の基盤を脅かす、盗掘被害、エゾシカの増加、登山道逸脱等への対応が必要
- モニタリング等を通じた森林生態系を保護・管理するための長期的な取組が必要
- クマゲラ、クマタカ、シマフクロウなどが生息できる大径木を含む発達した森林が必要
- 多様な生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出するなど長期的な取組が必要
- ゼニガタアザラシと地域社会の共存
- 自然海岸と希少動植物の保全

本公園の現状・課題・ビジョン

(1) 保護に関する事項

ビジョン

原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園

- 本公園の根幹である原生的な自然や豊かな生物多様性が、その機能とともに良好な状態で厳正に保持されている
- 山から海までつながる独自の生態系や景観の連続性が良好な状態で維持され、自然の恵みを提供している
- アイヌの世界観をはじめとした自然環境と結びついた文化景観としての価値が維持されている

本公園の現状・課題・ビジョン

(2) 利用に関する事項

現状

登山利用等

- アクセスや容易ではないなどの難易度の高さはあるが、原生的自然や独特の山岳美、ここでしか味わえない本格登山を楽しめる魅力がある
- 登山道が整備された比較的容易に高山植物や山岳景観を楽しめる場所もある

眺望を生かした観光等

- 山麓部、海岸部の様々な場所から雄大な山岳景観が眺望できる
- 利用の拠点となるエリアが限られることから、オーバーユースが懸念される

課題

- 様々な危険を伴うため、十分な体力、知識や経験、適切な装備と登山計画を有する必要性の周知が必要
- 地域ルールの設定や一層のマナー等の周知が必要
- 登山者のルール・マナー遵守が必要
- アクセスしやすい場所でのオーバーツーリズムの未然防止・抑制が必要
- 既存の利用拠点の魅力向上、拠点エリア間の連携、山麓部の豊かな自然を生かした学びや体験の場の提供、情報発信の充実等による、滞在型の周遊観光につながる広域連携や利用の分散が必要

本公園の現状・課題・ビジョン

(2) 利用に関する事項

ビジョン

利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園

- 核心部の上級者向け登山から山麓部での広域周遊まで、利用者の特性(目的・趣向)やレベル(技術・情報)に応じた幅広い楽しみ方があり、何度も訪れたくなる
- 環境に回復困難な負荷をかけないように、適正なゾーニングや利用上のルール・マナーが示され、利用者や事業者はその情報が行き届き守られている
- 利用者は、唯一無二の感動・体験をすることができ、その感動・体験を通じて、本公園を含む地域の自然、生き物、文化、暮らし等を学ぶことができる

本公園の現状・課題・ビジョン

(3) 管理運営体制に関する事項

現状

関係者との連携

- 関係する行政機関や団体が多く、お互いにできることを持ち寄り、連携することで課題解決の大きな力になる

利用施設・拠点・体験プログラムの充実

- 公園全体の魅力を紹介する情報発信機能が充実していない
- 観光コンテンツ等の対価の一部を保護に再投資される仕組みづくりは始まったばかり

学習のための人材・ソフトの充実

- 地域の自然や歴史・文化などに対する地域住民の理解・関心が十分でない

課題

- 関係者が理念を共有し、広域的に連携・団結して取り組むことが必要
- 少子高齢化の進行に伴う担い手の減少の中、関係者に限らず多くの力を集約する仕組み等を考えることが必要
- 点在する観光コンテンツ等を相互に紹介できる情報共有体制づくりが必要
- 唯一無二の感動や体験ができる博物展示施設や体験プログラム等の提供が必要
- 利用者負担等により得られた対価の一部を保護の取組に活用する仕組みが必要
- 自然ガイドや登山ガイド、歴史・文化を継承する担い手の育成が必要
- 地域住民を含めた関係者が公園の価値・魅力の共通認識を持つことが必要
- 市町村の施設等による地域の自然や歴史・文化などの普及啓発の取組の継続・補強・発展が必要

本公園の現状・課題・ビジョン

(3) 管理運営体制に関する事項

ビジョン

みんなで国立公園のことを考え、 連携・協働して管理運営に取り組む国立公園

- 多様な立場の関係する行政機関や団体が参画する協働型の管理運営体制等を活用しつつ、それぞれが役割を認識して主体的に取り組み、様々なアイデアを取り入れながら、相互に連携・協働した取組を推進している
- 原生的な自然や生物多様性を損なうことがないよう厳正に保護しながら、地域活性化が持続的に実現できるよう、保護と利用の好循環の仕組みや連携・協働した体制が構築されている
- 国立公園外を含む本公園に関係するあらゆる人々が、本公園の価値・魅力を共有して、知恵を出し合って連携して取り組んでいる

本公園の現状・課題・ビジョン

ビジョン実現に向けて実施する、
取り組みの方針、計画期間中の到達目標、取組共通の基本原則を「エ 取組方針」に、
取組方策、役割分担などを、「オ 取組方策及び役割分担」に取りまとめます。

⇒ 【資料4(2)行動計画骨子(たたき台)】 参照

他公園での記載例

尾瀬NP：
外来種や特定の動物の増加等による
影響への対応

(3) 野生動物との軋轢の解消

1) ニホンジカによる被害の低減

尾瀬地域は、元来ニホンジカによる影響を受けずに成立した生態系であると言われていますが、1990年代の日光地域のニホンジカの増加に伴い、本公園区域内においても、ニホンジカによる湿原植生の食害やスタ場の形成等、植生への影響が顕在化しており、希少な湿原植生の保全を目的とした緊急の対策が必要となっています。

そのため、関係者及び有識者が参画する「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会」の枠組みにより、日光地域を含めた広域連携の強化を図るとともに、「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針」(令和2年1月)及び生態系維持回復事業計画に基づき、尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除するための各種対策を実施します。

なお、これらの対策は、特定鳥獣保護管理計画や鳥獣被害防止計画等のもとに実施される各県・市町村の事業と連携して行います。

2) ツキノワグマとの共存

本公園はツキノワグマの重要な生息地で、生息環境の保全が必要である一方で、過去に2度の人身事故が発生しており、クマとの軋轢を起こさない利用のあり方が求められています。平成21年度に設置された「尾瀬国立公園ツキノワグマ対策協議会」を中心に、同協議会で作成した「尾瀬国立公園ツキノワグマ出没対応マニュアル」に沿った形で関係者との協力のもと事故防止対策を実施し、ツキノワグマとの共存や軋轢を起こさない利用のあり方を検討していくとともに、ツキノワグマの生息地としての環境を維持していきます。

3) 野生鳥獣による新たな問題への対応

本公園の周辺地域においてイノシシ等の生息域の拡大が指摘されていることから、関係団体・関係者と連携し、調査研究及びデータ蓄積の促進を図ります。本公園内においてイノシシ等による自然景観や自然環境への影響が発生した場合には、関係機関の方針や計画等との整合性を図りながら対策を実施します。

他公園での記載例

大雪山NP： グレードに応じた整備・維持管理

1) 登山道等施設の整備、維持管理

ア 登山道等施設の整備に関する事項

(ア) 取組事項

- ①大雪山国立公園全体の登山道を対象として、事業執行者の配置の見直し、登山道未執行区間の解消に重点的に取り組み、適正な整備、維持管理ができる基盤を整えます。
- ②登山道の整備は、「大雪山国立公園登山道管理水準」（保全対策ランク、大雪山グレード）、「大雪山国立公園登山道整備技術指針」に基づき、過剰な整備を行わないよう十分に配慮し行います。
- ③避難小屋については、登山道の維持管理拠点等の強化が求められる今後の役割も踏まえ、利用実態を把握したうえで計画的な整備を実施し、老朽化した案内板、誘導標識及びその他の施設の更新に当たってはデザインの統一化を検討します。

22

- ④案内板、誘導標識及びその他の施設は原則として多言語表記にします。多言語表記については、日本語及び英語を基本とし、必要に応じてその他の言語を追加します。また、デザインに配慮するため、二次元コードの活用も検討します。

(イ) 指導事項、遵守事項

利用者に対し、大雪山グレードの確認、危険の認識、自己責任で力量にあった登山を指導します。

他公園での記載例

吉野熊野NP(田辺地域):管理運営の連携・協働体制

Ⅵ. 国立公園関係者の連携体制等に関する事項

吉野熊野国立公園は、優れた自然の風景地の保護と利用の増進だけでなく、生物多様性の保全、環境教育の推進、地域振興、文化の源泉、生活環境の保全という面でも重要な役割を担っている。これらは地域特有の魅力でもあり、地域の関係者や官民が一体となって連携していくことでさらに高められるが、そのためには、国立公園のより良い将来像を地域で共有し、地域の実情に合わせてそれを実現していくための体制を構築することが必要となる。そこで、本地域においては、国立公園の管理運営を地域の様々な主体が協働して行う仕組み（協働型管理運営体制）を構築することを目指し、「吉野熊野国立公園田辺地域連絡協議会」を設置し、協議を進めてきた。本協議会では、本地域の適正な保全及び利用の推進を図るため、ビジョン、管理運営方針等を検討し、決定した内容は本計画に位置付けるとともに、本計画に基づき、各主体が実施する具体的な取組を取りまとめた「行動計画」を策定した。

今後、各主体において本計画及び行動計画に基づく取組を推進していくとともに本協議会で行動計画等の取組の進捗状況を確認し、取組における課題の抽出やその対応について検討するなど、相互の連携を強化し、協働で国立公園の適正な管理運営を進めていく。また、国立公園の区域に重複もしくは隣接する世界文化遺産、ジオパーク、世界農業遺産等における各種取組とも連携を図りながら、本計画及び行動計画に基づく取組をより効果的に推進していく。

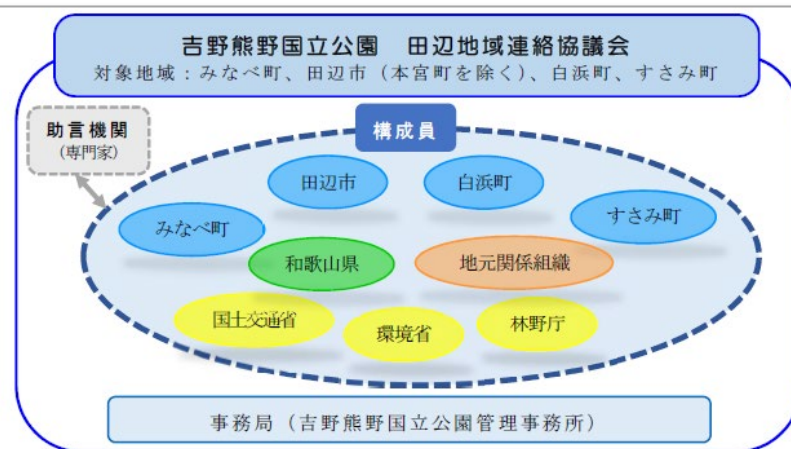


図 10. 吉野熊野国立公園田辺地域連絡協議会構成図

検討スケジュール

月(想定)	会議体	進め方(作成資料案及び取得すべき意見)
R8.7 (今回)	第1回幹事会	・関係機関のR7取組結果とR8取組予定の共有 ・行動計画作成に向けた作業概要とスケジュールの共有 ・行動計画骨子(たたき台)について
R8.10~12	第2回幹事会	・行動計画(骨子案)について
R9.1~3	第3回幹事会	・行動計画(素案)について

行動計画骨子（たたき台）

【決定済】				【今回検討】			
ビジョン				管理運営計画（行動計画）			
現状と課題		ビジョン		行動計画			
現状	課題	ビジョン	目指すべき将来像	ビジョン	管理運営方針（案）	令和12（2030）年度までの取組方針（案）	取組方策（例）
（1）保護に関する事項							
（高山生態系） ・日高山脈の生物多様性を特徴づける固有種や隔離分布種が多く生息・生育する ・気候変動の影響と考えられる植生遷移の進行により高山植物群落の衰退が進み、この影響でヒメチャマダラセセリの個体数の減少も続く ・市民団体による盗掘防止パトロールや登山者へのマナー啓発、地域ぐるみでの高山植物群落の保全に取り組む	・貴重な高山生態系の基盤を脅かす、盗掘被害				本公園の根幹である原生的な自然や豊かな生物多様性が、その機能とともに良好な状態で厳正に保持されている国立公園にする	原生的な自然環境を保護し、豊かな生物多様性を保全することにより、それらの有する機能を維持する	・関係法令の適切な運用 ・野生動植物の保護管理（シマフクロウ保護増殖事業、高山植物の保護対策） ・携帯トイレ回収BOXの設置等による山岳へのゴミ置き去りの防止
						良好な状態で厳正に保持するための保護管理に反映できるよう、自然環境の変化の把握に取り組む	・現地確認及び巡回等の実施及びその情報の集約 ・自然環境の科学的モニタリング ・データに基づく対策の検討及び実施
（森林生態系） ・多様な群落タイプが認められる広大な森林生態系が存在する ・天然記念物であるクマゲラ、希少猛禽類であるクマタカやシマフクロウなどの重要な生息地になっている	・モニタリング等を通じた森林生態系を保護・管理するための長期的な取組が必要 ・クマゲラ、クマタカ、シマフクロウなどが生息できる大径木を含む発達した森林が必要	①自然環境の厳正な保護 原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園	➤本公園の根幹である原生的な自然や豊かな生物多様性が、その機能とともに良好な状態で厳正に保持されている ➤山から海までつながる独自の生態系や景観の連続性が良好な状態で維持され、自然の恵みを提供している ➤アイヌの世界観をはじめとした自然環境と結びついた文化景観としての価値が維持されている	原生的な自然とその恵みを、後世まで守り伝えていく国立公園	山から海までつながる独自の生態系や景観の連続性が良好な状態で維持され、自然の恵みを提供している国立公園にする	山岳から海洋までつながる生態系や景観の連続性を維持する	・関係法令の適切な運用【再掲】 ・周辺地域における自然共生サイト登録を推進し生態系ネットワークを形成 ・野生動植物の保護管理（シカの食害対策、ゼニガタアザラシの対応等） ・ゼロカーボンパーク等を通じた脱炭素化、脱プラスチック等の取組の実施
						良好な状態で維持するための保護管理に反映できるよう、自然環境の変化の把握に取り組む	・現地確認及び巡回等の実施及びその情報の集約【再掲】 ・自然環境の科学的モニタリング【再掲】 ・データに基づく対策の検討及び実施【再掲】
（河川生態系） ・水生昆虫からサケ科魚類を経て大型猛禽類へつながるような食物連鎖が形成されている ・オショロコマに対する生息域の分断、外来魚との競合及び捕獲圧等による生息域の縮小や生息数の減少が危惧される ・魚類が豊富に生息する河川と、大径木を含む河畔林を好むシマフクロウが生息する ・洪水攪乱に依存する野生生物も生育・生息している	・多様な生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出するなど長期的な取組が必要						
（海洋・海浜生態系） ・海岸断崖に希少な植物、希少猛禽類などが生育・生息している ・豊かな海を象徴する海生哺乳類（ゼニガタアザラシ）が生息している ・魚介類や海藻類の漁労風景は夏の風物詩になっている ・海洋環境の変化に伴い漁獲される水産物の変化が生じている ・海岸断崖の消失・改変が進んでいる	・ゼニガタアザラシについて特定希少鳥獣管理計画に基づく取組が必要 ・残された自然海岸を保持し希少な動植物を保全することが必要				アイヌの世界観をはじめとした自然環境と結びついた文化景観としての価値が維持されている国立公園にする	自然環境と結びついた文化景観としての価値を維持する	・関係法令の適切な運用【再掲】 ・現地確認及び巡回等の実施及びその情報の集約【再掲】 ・自然と共生してきたアイヌの精神文化に関する普及啓発及び理解促進を担う人材を育成

【決定済】				【今回検討】			
ビジョン				管理運営計画（行動計画）			
現状と課題		ビジョン		行動計画			
現状	課題	ビジョン	目指すべき将来像	ビジョン	管理運営方針（案）	令和12（2030）年度までの取組方針（案）	取組方策（例）
（２）利用に関する事項							
（登山利用等） ・アクセスや容易ではないなどの難易度の高さはあるが、原生的な自然や独特の山岳美、ここでしか味わえない本格登山を楽しめる魅力がある ・登山道が整備された比較的容易に高山植物や山岳景観を楽しめる場所もある	・様々な危険を伴うため、十分な体力、知識や経験、適切な装備と登山計画を有する必要性の周知が必要 ・地域ルールの設定や一層のマナー等の周知が必要 ・登山者のルール・マナー遵守が必要 ・アクセスしやすい場所でのオーバーツーリズムの未然防止・抑制が必要	②適正な利用の推進 利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園	➢核心部の上級者向け登山から山麓部での広域周遊まで、利用者の特性（目的・趣向）やレベル（技術・情報）に応じた幅広い楽しみ方があり、何度も訪れたくなる	利用者のレベルに応じた楽しみ方があり、自然体験の質が確保されている国立公園	核心部の上級者向け登山から山麓部での広域周遊まで、利用者の特性（目的・趣向）やレベル（技術・情報）に応じた幅広い楽しみ方があり、何度も訪れたくなる国立公園にする	利用者の特性やレベルに応じた様々な楽しみ方の提供を推進する	・インタープリテーション全体計画の作成及び活用 ・自然体験活動計画及び自然体験活動促進計画の作成並びにそれらに基づいた自然体験の提供 ・周辺地域も含めた利用の推進 ・ロングトレイルの運用 ・公園外の視点場等の活用
					体験できることやその魅力、また必要なレベルを分かりやすく来訪者に伝えることを推進する	・インタープリテーション全体計画の作成及び活用【再掲】 ・登山道利用体験グレードの設定及び周知	
広く一般の利用を促進するエリア、限定的な利用をするエリア及びいずれにも該当しないエリアなど、場所に応じた利用の望ましいあり方を整理し、それに適合した利用を推進する	・自然体験活動計画及び自然体験活動促進計画の作成並びにそれらに基づいた自然体験の提供【再掲】 ・エリアごとに利用のあり方を整理 ・登山道利用体験グレードの設定及び周知【再掲】 ・利用者数、利用の形態及び利用者の動向を把握						
環境に回復困難な負荷をかけないように、適正なゾーニングや利用上のルール・マナーが示され、利用者や事業者にその情報が行き届き守られている国立公園にする	利用上のルール・マナーを整理し、多様化する利用者等に向けた積極的な情報発信とともに、それらの情報への横断的アクセス環境の整備を推進する	・利用に関する情報の収集及び整理並びに情報へのアクセスの導線の整備 ・登山道利用体験グレードの設定及び周知【再掲】 ・利用のルール・マナーの設定及び周知 ・利用施設の展示、標識及び利用に関する情報の多言語化を含むユニバーサルデザインの推進及び発信 ・文化・習慣の違いに応じたルール・マナーの設定及び周知					
（眺望を生かした観光等） ・山麓部、海岸部の様々な場所から雄大な山岳景観が眺望できる ・利用の拠点となるエリアが限られることから、オーバーユースが懸念される	・既存の利用拠点の魅力向上、拠点エリア間の連携、山麓部の豊かな自然を生かした学びや体験の場の提供、情報発信の充実等による、滞在型の周遊観光につながる広域連携や利用の分散が必要		➢利用者は、唯一無二の感動・体験をすることができ、その感動・体験を通じて、本公園を含む地域の自然、生き物、文化、暮らし等を学ぶことができる		利用者は、唯一無二の感動・体験をすることができ、その感動・体験を通じて、本公園を含む地域の自然、生き物、文化、暮らし等を学ぶことができる国立公園にする	本公園に特徴的な自然環境と人々の営みとを関連付けたストーリーに基づく、質の高い自然体験の提供を推進する	・インタープリテーション全体計画の作成及び活用【再掲】 ・ロングトレイルの運用【再掲】 ・自然体験活動計画及び自然体験活動促進計画の作成並びにそれらに基づいた自然体験の提供【再掲】 ・自然と共生してきたアイヌの精神文化に関する普及啓発及び理解促進を担う人材を育成【再掲】 ・知識やスキル等の向上を図る人材育成 ・利用施設の展示更新や滞在環境の改善等による上質化 ・環境教育や普及啓発イベント等の実施

【決定済】				【今回検討】			
ビジョン				管理運営計画（行動計画）			
現状と課題		ビジョン		行動計画			
現状	課題	ビジョン	目指すべき将来像	ビジョン	管理運営方針（案）	令和12（2030）年度までの取組方針（案）	取組方策（例）
（３）管理運営体制に関する事項							
（関係者の連携） ・関係する行政機関や団体が多く、お互い にできることを持ち寄り、連携することで課題 解決の大きな力になる	・関係者が理念を共有し、広域的に連携・ 団結して取り組むことが必要 ・少子高齢化の進行に伴う担い手の減少の 中、関係者に限らず多くの力を集約する仕 組み等を考えることが必要		➢多様な立場の関係する行政機関や 団体が参画する協働型の管理運営 体制等を活用しつつ、それぞれが 役割を認識して主体的に取り組 み、様々なアイデアを取り入れな がら、相互に連携・協働した取組 を推進している	多様な立場の関係する行政機関や団 体が参画する協働型の管理運営体制 等を活用しつつ、それぞれが役割を 認識して主体的に取り組み、様々な アイデアを取り入れながら、相互に 連携・協働した取組を推進している 国立公園にする	協働型管理運営の体制を確立する	・総合型協議会（日高山脈襟裳十勝国立公園協議 会）の設置及び運営	
					ビジョンの実現に向け、役割分担をしなが ら具体 の取組を推進する	・行動計画の策定 ・行動計画に基づく取組の実施	
					ビジョンの実現に向けて実施する取組につ いて、 相乗効果を発揮するよう関係者の連携・協働を推 進する	・総合型協議会（日高山脈襟裳十勝国立公園協議 会）の活用 ・行動計画に基づく取組の実施【再掲】	
（利用施設・拠点・体験プログラムの充実） ・公園全体の魅力を紹介する情報発信機能が 充実していない ・観光コンテンツ等の対価の一部を保護に再 投資される仕組みづくりは始まったばかり	・点在する観光コンテンツ等を相互に紹介 できる情報共有体制づくりが必要 ・唯一無二の感動や体験ができる博物展示 施設や体験プログラム等の提供が必要 ・利用者負担等により得られた対価の一部 を保護の取組に活用する仕組みが必要 ・自然ガイドや登山ガイド、歴史・文化を 継承する担い手の育成が必要	③連携・協働の 推進 みんなで国立公園 のことを考 え、連携・協働 して管理運営に 取り組む国立公園	➢原生的な自然や生物多様性を損な うことがないよう厳正に保護しな がら、地域活性化が持続的に実現 できるよう、保護と利用の好循環 の仕組みや連携・協働した体制が 構築されている	みんなで国立公園 のことを考 え、連携・協働して管理 運営に取り組む国立公園	原生的な自然や生物多様性を損なう ことがないよう厳正に保護しなが ら、地域活性化が持続的に実現で きるよう、保護と利用の好循環の仕 組みや連携・協働した体制が構築さ れている国立公園にする	地域住民や来訪者と本公園の価値・魅力 を共有し、環境意識を向上することで、 本公園の厳正な保護と地域活性化の持 続的な実現とを併存させなが ら推進する	・インタープリテーション全体計画を通じ た身近な 自然環境の価値・魅力の再発見 ・環境教育や普及啓発イベント等の実施 【再掲】 ・ゼロカーボンパーク等を通じた脱炭素 化、脱プラスチック等の取組の実施【再 掲】
					利用者その他関係者の意識を確認し つつ、利用により得られた経済的利益を保護 の取組に活用するなどの、保護と利用の 好循環の仕組みの検討及び 導入を推進する	・イベントや商品販売により得られる利 益の一部を 環境保全活動に還元	
					国立公園外を含む本公園に関係する あらゆる人々が、本公園の価値・魅力 を共有して、知恵を出し合 って連携して取り組んでいる	公園外の施設等とも連携し、ビジョン の実現に向けて、あらゆる人々の知恵 を集めた協働型管理運営を推進する	・インタープリテーション全体計画の作 成及び活用【再掲】 ・ロングトレイルの運用【再掲】 ・自然と共生してきたアイヌの精神文 化に関する普及啓発及び理解促進を担 う人材を育成【再掲】 ・公園外の視点場等の活用【再掲】 ・アウトドア関連企業との連携 ・他の国立公園等との連携
（学習のための人材・ソフトの充実） ・地域の自然や歴史・文化などに対する地域 住民の理解・関心が十分でない	・地域住民を含めた関係者が公園の価値・ 魅力の共通認識を持つことが必要 ・市町村の施設等による地域の自然や歴 史・文化などの普及啓発の取組の継続・補 強・発展が必要		➢国立公園外を含む本公園に関係する あらゆる人々が、本公園の価値・魅力 を共有して、知恵を出し合 って連携して取り組んでいる	国立公園外を含む本公園に関係する あらゆる人々が、本公園の価値・魅力 を共有して、知恵を出し合 って連携して取り組んでいる国立公園に する	公園外の施設等とも連携し、ビジョン の実現に向けて、あらゆる人々の知恵 を集めた協働型管理運営を推進する		

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の今後の進め方について（令和8（2026）年7月23日版）

実施項目	令和 6 年度				令和 7 年度									令和 8 年度												令和9年度以降		
	8	…	2	3	4	5	6	7	8	…	12	…	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
●会議開催																												
協議会総会	8/27				書面				8/5					書面					9/3								年1回程度開催（第1四半期頃）	
幹事会			2/19				6/23				12/22		3/4				7/23										年3～4回程度開催	
登山道部会							6/23				12/22		3/4														適宜開催	
その他部会				3/24																							必要に応じて設置、開催	
●議題																												
ビジョン	令和7年8月5日策定										所定の手続きを経て、公園計画の基本方針に反映させる。																	
管理運営方針											幹事会において、管理運営方針（案）を作成し、協議会で承認いただく。 所定の手続きを経て、公園計画の基本方針に反映させる。																	
行動計画・地域ルール											幹事会において、必要に応じて行動計画（案）や地域ルール（案）を作成し、協議会で承認いただく。 所定の手続きを経て、国立公園管理運営計画に反映させる。																	
夏山登山の心得 登山道利用体験グレード	必要に応じて年 1 回程度見直し予定																											
自然体験活動計画											環境省が作成する自然体験活動計画（たたき台）について、R7第 3 回幹事会で報告した。 所定の手続きを経て、公園計画に反映させる。																	
登山道部会	準備会合において、部会規約及び普及啓発資料の作成を行った。					総会で決定された普及啓発事項について、各構成員から周知。				夏山シーズンの状況について各構成員が把握した情報を共有。 部会を開催し、対応が必要な事項について協議。																		
その他部会							必要に応じて、部会を設置し、個別課題について議論。																					

（用語の定義）

ビジョン	国立公園の風景型式及び公園の利用の現況並びにそれらの特性を踏まえ、公園の風致景観を保護するとともに、その特性に対応した適正な利用が行われるよう、中長期的な視点に立ち、公園の望ましい姿（公園の保護すべき資源、利用の方向性等）、公園が提供するべきサービス（役割、機能）、公園の価値や保全・利用の目標をわかりやすく示したもの。
管理運営方針	ビジョンの実現に向け公園を管理運営していくに当たっての方向性を示したものであり、「保護に関する事項」と「利用に関する事項」に分けて記載する。 「保護に関する事項」として、当該公園の主要な保護対象及びそれらの保護管理の方針、特別地域（特別保護地区並びに第1種、第2種及び第3種特別地域）、海域公園地区及び利用調整地区等の指定方針等について記載する。 また、「利用に関する事項」として、主たる利用形態、公園区域内外にわたる利用動線の現況と今後の方針、主要な利用拠点又は利用施設の配置及び整備の方針、特定の地域における利用規制に関する方針等を記載する。
行動計画	ビジョン、管理運営方針等に基づき、自然環境の保全、利用施設の整備及び取組内容及び役割分担について整理したもの。
地域ルール	国立公園の全部又は一部の地域において、自然環境や利用状況を踏まえて定める地域特有の自然環境保全及び適正利用の推進のための自主的なルールや遵守事項。
自然体験活動計画	公園の風致景観及び自然環境、利用状況等の公園ごとの特性を踏まえ、質の高い自然体験活動の促進に関して、当該公園において自然体験活動を促進する上で踏まえるべき自然資源の特性、当該公園における質の高い自然体験活動の促進に関する基本的な方針等を定めるもの。

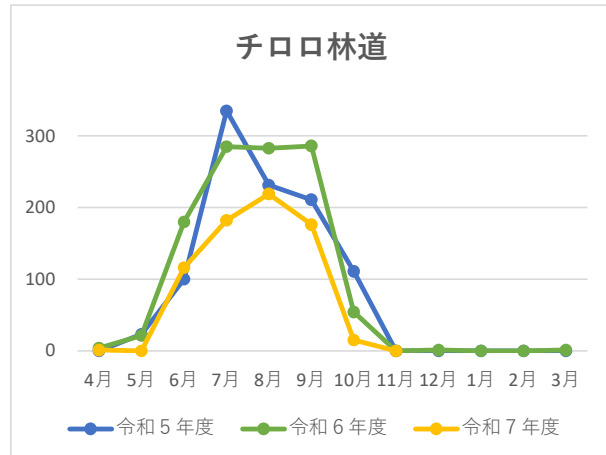
林野庁 北海道森林管理局
日高北部森林管理署

日高北部森林管理署管内の入林者名簿記載者数

(令和8年3月31日現在)

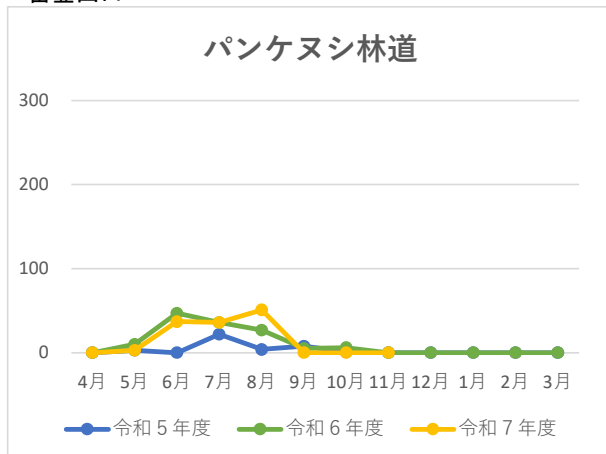
林道・月別入林者名簿記載者数(チロロ林道終点) ヌカピラ岳～北戸蔦別岳～幌尻岳登山口

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4月	0	4	1
5月	23	21	0
6月	100	180	116
7月	335	285	182
8月	231	283	219
9月	211	286	176
10月	111	54	15
11月	0	0	0
12月	0	1	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	1	0
合計	1,011	1,115	709



林道・月別入林者名簿記載者数(パンケヌシ林道) チロロ岳登山口

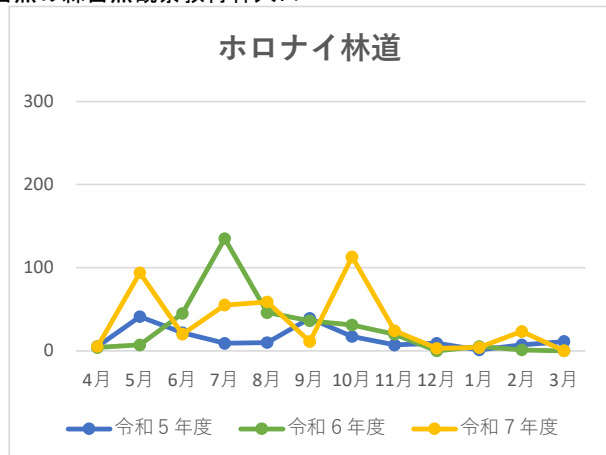
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4月	0	0	0
5月	3	10	3
6月	0	47	37
7月	22	36	36
8月	4	27	51
9月	8	5	0
10月	1	6	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	38	131	127



(パンケヌシ林道については、令和5年度は通行止め)

林道・月別入林者名簿記載者数(ホロナイ林道) 日高自然の森自然観察教育林入口

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4月	5	4	5
5月	41	7	94
6月	22	45	20
7月	9	135	55
8月	10	46	59
9月	39	36	11
10月	17	31	113
11月	7	20	24
12月	9	0	3
1月	1	5	4
2月	7	1	23
3月	11	0	0
合計	150	330	411



【十勝西部森林管理署管内における入林者数の状況について】

十勝西部森林管理署
R8.6.30現在

山岳名	林道	入林者数（人）				備考
		R7年総数	R8年	去年同期	増減	
剣山	—	2,169	266	354	▲ 88	R8年5月末時点
ペケレベツ岳	—	44	106	34	72	
芽室岳	オマベツ林道	97	82	97	▲ 15	
久山岳	—	—	—	—	—	
伏美岳 ピパイロ岳 北戸蔦別岳	トムラウシ沢林道 (工事実施中 車両通行不可)	—	—	—	—	
十勝幌尻岳	戸蔦別川 オピリネツプ林道	359	82	42	40	R8年5月末時点
コイカクシュツナイ岳 ヤオロマツプ岳 1839峰	—	93	—	—	—	令和8年より中札内 村にて把握・集計 いただいております。
カムイエクウチカウシ山	—		—	—	—	

注) 入林者数は入林者名簿に記載のあったものの集計値であり、正確に入林者数を計上したものではありません。

注) 公園計画に指定のある山岳のみ記載しています。

シンポジウム「日高から考える持続可能な観光と地域づくり」を開催

自然が織りなす景観と豊かな自然の恵みが魅力の日高地域において、地域で活躍する挑戦者に登壇いただき、観光と地域づくりについて地域の方々と一緒に考える機会として、シンポジウム「日高から考える持続可能な観光と地域づくり」を開催。

- 日時 令和7年8月5日(火) 15:00-17:00
- 会場 浦河ウエルントンホテル 2階 (WEB配信併用)
- 参加者数 計211人 (会場：107人、WEB：104人)

プログラム

- 基調講演：資源を魅力に変える～これからの観光地域づくりに求められる3つの視点～
石黒 侑介氏 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授)
- パネルディスカッション：挑戦者と共に考える持続可能な観光と地域づくり
【コーディネーター】石黒 侑介氏 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授)
【コメンテーター】清野 信也氏 (北海道運輸局観光部 次長)
【パネリスト】 鈴木 宏紀氏 (自然考房 Nature Designing 代表)
千本木 倫子氏 (浦河町地域おこし協力隊)
山田 桜子氏 (株式会社NEPKI 代表)
橋本 勝司氏 (ぼると・みついし 代表)

基調講演 資源を魅力に変える ～これからの観光地域づくりに求められる3つの視点～ 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授 石黒 侑介氏

■ 資源と魅力は何か違うか

- ・観光アトラクションは核(食べ物・自然など)とマーカー(価値を伝える言葉・情報)から構成され、核そのものの価値よりマーカーが重要になる。
- ・日高エリアで「人を動かす魅力を考える上では、旅行動機と直結するもの、ついでに立ち寄りもの、当地を訪れて初めて認知するもの、といった観光アトラクションの階層構造を理解し、地域の資源をアトラクションとして設計することが必要。

■ マーカー(価値を伝える言葉・情報)を可視化する

- ・マーカーを旅行者に伝えていく上では、イメージの刷り込みが重要。観光とは直接関係の無いところで日高エリアの「有機的イメージ」をつくり込んだ上で、人を魅了できる「誘導的なイメージ」を打ち込むことが必要。
- ・ターゲットが「日高のイメージ」をどのように描いているかを把握し、どのようなイメージ形成が必要で、何を打ち出していくべきかを戦略立てて行うことが重要。

■ 消費者が「変わる」体験づくり

- ・近年は、消費志向が「モノ消費」から「コト消費」に変化しており、人々は自分が「変わった」ということに対して価値を感じて対価を支払っている。日高エリアに来る前後で、旅行者が「変わった」と思えるようなプログラム・体験を設計することが重要。



パネルディスカッション 挑戦者と共に考える持続可能な観光と地域づくり

■ 鈴木 宏紀氏 (自然考房 Nature Designing 代表)

- ・観光客に来てもらっても、周辺に店が無かったり、遅い時間まで開いていないことでマイナスイメージになる。宿泊施設だけでなく、飲食店、観光インフラなどの施設整備も必要。
- ・日高には観光に関わる人がまだまだ少ないことから、観光事業者、行政関係者が日ごろの交流を通して、顔が見えるネットワークを築いておくことが必要。



■ 千本木 倫子氏 (浦河町地域おこし協力隊)

- ・浦河町は馬に関わっている人が多い一方、観光客と関わる機会が少ないことが課題。ファンが増えれば馬産業の将来のためにもなるので、両者のすり合わせが必要。
- ・馬愛好家はSNSなどでの情報発信力が非常に高い。地域もその情報発信の影響力をうまく活用していくことが重要。



■ 山田 桜子氏 (株式会社NEPKI 代表)

- ・二風谷ではアイヌの工芸品を学ぶために移住してくる若者が増加してきているが、将来的に地域をどうしていきたいかというビジョンを共有できていないことが課題。
- ・「日高に行こう」と思ってもらえるイメージづくりと情報発信、それを企画するネットワークの強化が重要。



■ 橋本 勝司氏 (ぼると・みついし 代表)

- ・日高には馬を目的とした観光客は来るが、その他の目的で日高に来る観光客が少ない。地域が持続するため、地元だけでなく観光客にも来てもらえるメニューを提供していきたい。
- ・日高地域の情報発信に関して十分な連携が取れておらず、観光関係者間で連携していくことが必要。



■ コメンテーター 清野 信也氏 (北海道運輸局観光部 次長)

- ・来訪者を通じて、地域への誇りや愛着を再認識することも観光の重要な意義の一つ。
- ・観光による持続可能な地域づくりや仲間づくり、行政の巻き込みを行うためには、地域でしっかりと話をしていくことが原点。また、感覚だけではなくデータに基づく分析が重要。



■ コーディネーター 石黒 侑介氏 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 准教授)

- ・観光はそれ自体が目的ではなく、外部の目線を使って地域を見つめなおす・繋ぎなおすためのツールである。教育やファンづくりも、観光のあり方の一部であると再認識。
- ・日高地域には様々な挑戦者がいるため、地域の中でネットワークができれば、さらに大きな取り組みができるようになるのではないかと。



○日本最大面積を誇る「日高山脈襟裳十勝国立公園」において、「守るべき自然」を域内外の方に見て感じてもらえる環境の整備、来訪者の訪問が自然環境の保全に貢献する仕組みの構築を目指す

○令和7年度に引き続き、世界的な旅行ニーズを捉え、歩きながら自然、歴史、文化に触れる旅を提供できる「ロングトレイル」を軸に、アメリカを中心とするハイカーをターゲットとして、路線調査や運営体制のあり方の検討等を実施する

課題

○令和6年6月に日本最大面積を誇る「日高山脈襟裳十勝国立公園」が誕生したが、登山道の整備における資金及び人材不足や高山植物等への悪影響の増加が大きな課題となっている

○上記の課題を解決するためには、自然保護意識の高い層の誘客と、地域住民の日高山脈の重要性を再認識してもらうことが必要となるが、日高山脈は、多数の徒渉や行動時間が長い等、ハードな山が多く、「守るべき自然」を見てもらえる環境が整っていない

＜事業主体：北海道運輸局＞

連携先：北海道地方環境事務所、北海道、北海道開発局、日高山脈襟裳十勝国立公園沿線13市町村等

＜取組概要＞

①路線基礎調査

昨年度は、日高エリアの約300kmの路線基礎調査を実施したが、調査路線を延伸して、十勝エリアにおいて基礎調査を実施する。

②運営体制の視察研修

ロングトレイルの運営に関心の高い民間の方を対象に、先進地の運営団体に視察研修を実施する。

③路線の具体的な検討

昨年度実施した日高エリアの路線基礎調査の結果を活用し、ロングトレイルとしての活用を念頭にいた仮整備や、活用に課題のある路線の代替案等を検討するワークショップを開催する。

④運営体制の検討

「ロングトレイル」を軸としたマーケティング、収益化の手法、収益の分配方法等、JSTS-Dを踏まえた望ましい運営のあり方について検討会を実施

⑤ロングトレイルの理解促進

「ロングトレイル」や「ハイカー」について、理解を深めるセミナー等を開催する

⑥インタープリターの養成

来訪者の日高山脈の環境保全への貢献を促進するため、日高山脈の自然の恩恵を受けて成り立っている暮らし等を伝えるインタープリターを養成する講座を開催する

【事業成果】・ロングトレイルの路線設定案（十勝エリアも含めた案）・インタープリター養成人数3人・ロングトレイル運営団体の候補案

3～4年目・地域住民、関係者との合意形成・運営体制の構築

5年後・ロングトレイルの開通・持続可能な運営体制の確立（自走化）

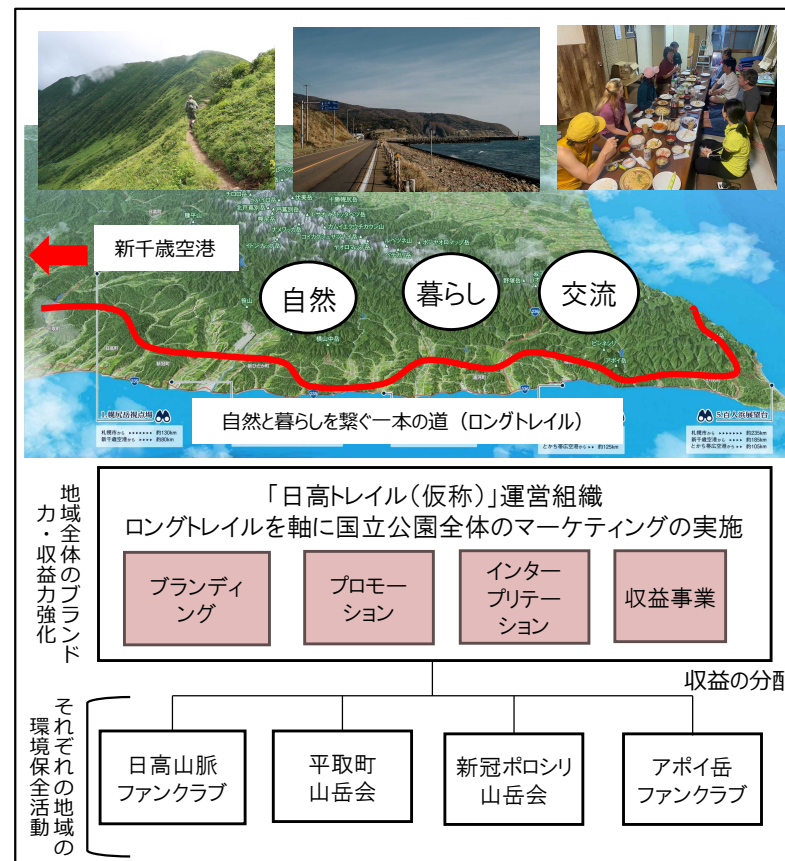
次年度：運営団体候補の洗い出し、地域住民・関係者との合意形成に向けた働きかけ等

事業概要

目標

次年度以降

取組内容のイメージ



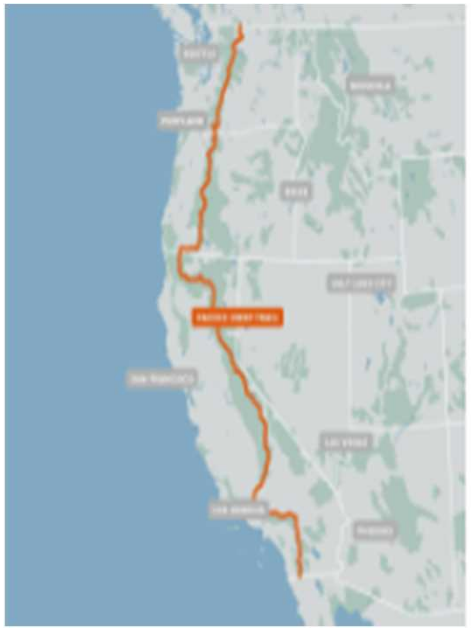
地域の持続可能性を重視する旅行者を誘客し、環境保全に貢献してもらうことで、日高山脈の環境保全を持続可能なものにするこ
とを目的として、当該国立公園の各エリアの自然と人を繋ぐ「**ロングトレイル**」の**造成**を検討するため、以下の基礎調査を実施した。

(1) 先進地調査

① 先進地の文献調査

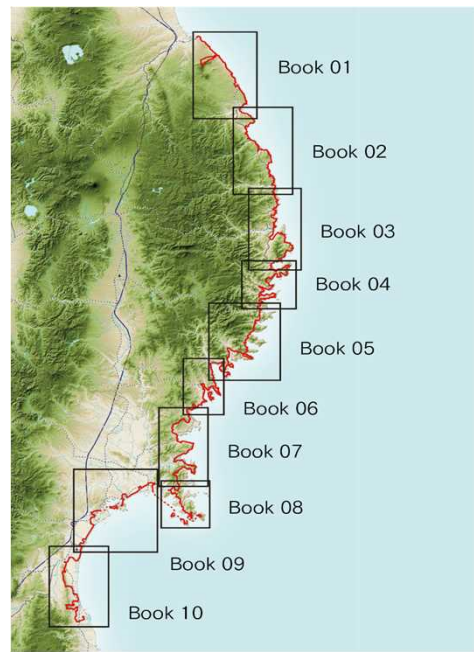
アメリカのナショナルシーニックトレイルとなっている「パシフィック・クレ
スト・トレイル（以下、PCT）」をはじめ、国内の先進事例として民
間主導で開通した「信越トレイル」、環境省が主導して開通した
「みちのく潮風トレイル（以下、MCT）」等、計5つの事例の調査
を行った。

PCT
アメリカ西海岸に位置し、メキシコ
国境～カナダ国境に及ぶ全長
4,265kmのトレイル



② 先進地の現地視察（参加者5名）

2025年9月6日～9日、MCTを3泊4日で訪問。当該エリアの自治体、地域事業者
が参画し、MCTに関わる地域関係者等を訪問、体験を通じて意見交換を実施。
視察を経て、ロングトレイルの特徴として以下のことが挙げられることを実感した。



MCT
青森県～福島県まで4県29
市町村に跨る全長4,265km
のトレイル

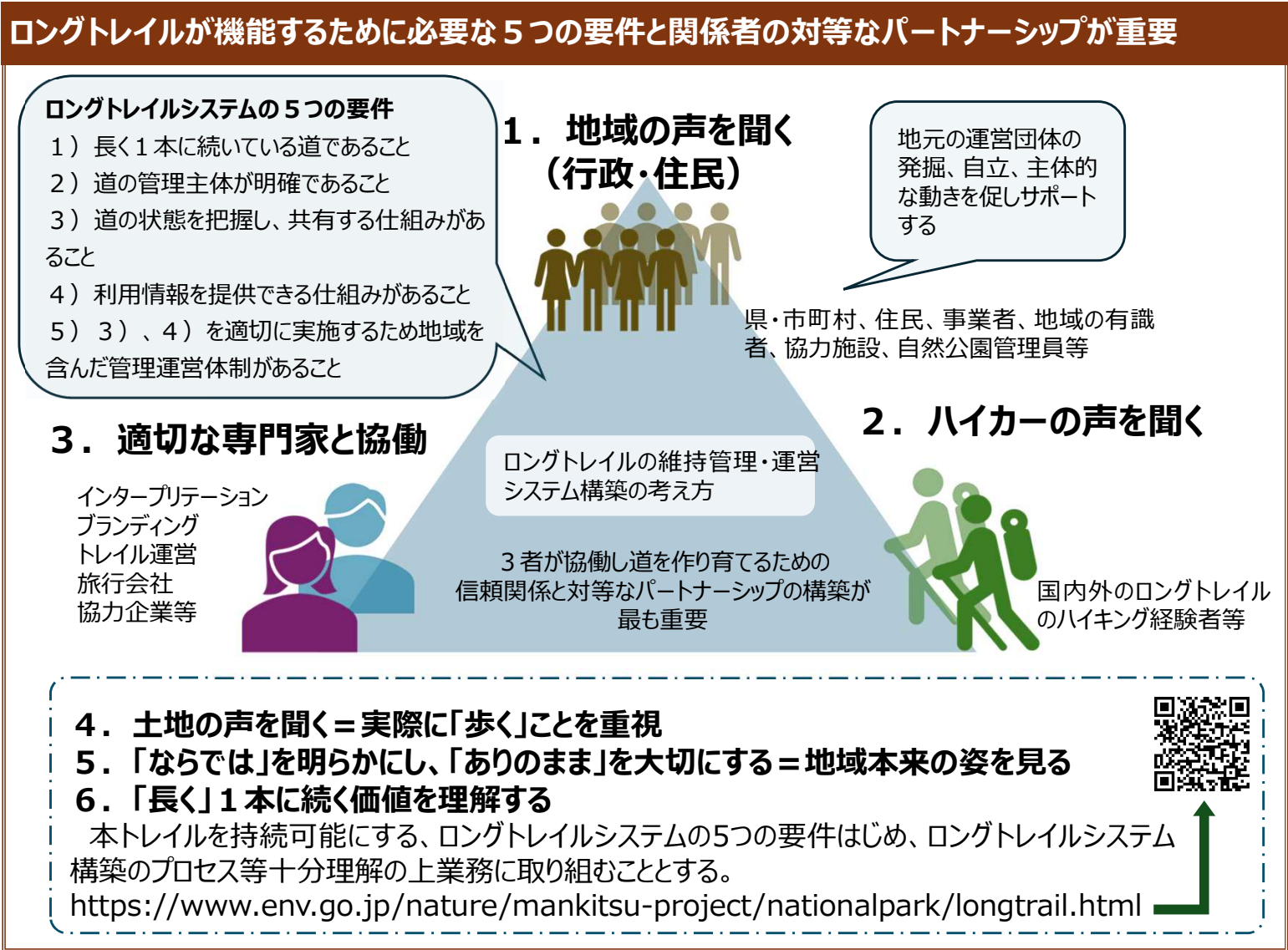


ロングトレイルの特徴

一般的な「観光」では、繋がることが少ない「住民」と「来訪者（ハイカー）」との繋がりが生まれ、経済効果だけではなく、地域の方々と来訪者
双方に、地域への思い入れや貢献意識が育まれる旅行の形態である

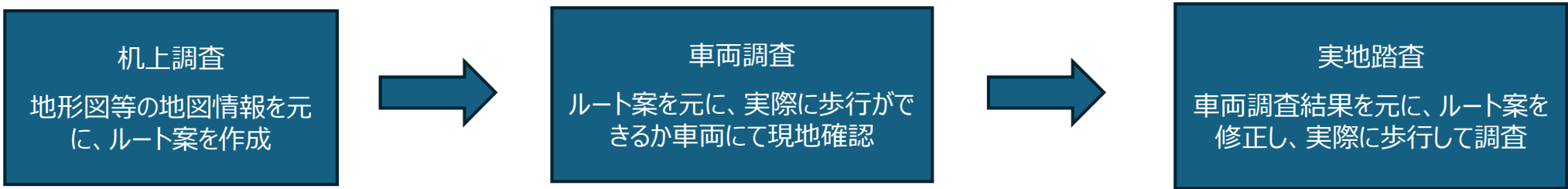
先進地調査のまとめ

- 「ロングトレイル」は、来訪者に地域貢献意識を醸成させるとともに、受け入れる地域の方々のシビックプライドを醸成させることができるものであり、環境保全への貢献が期待できるものである
- ロングトレイルが機能するためには、以下のことが重要となる



(2) トレイル調査

日高山脈エリアに「ロングトレイル」を造成することができるかどうか検討するために、以下の流れで、検討材料となる「道」の情報の整理を行った。



調査のポイント

実地踏査により以下のポイントを確認した。

- ①安全に歩行できるか
- ②補給が可能か
- ③宿泊ができるか
- ④公共交通の運行状況
- ⑤ハイカーにとって魅力的か



トレイル調査まとめ

公共交通（バス）を利用することで、補給、宿泊は可能だが、安全面に課題があるルートもあり、調査で歩いたルートをそのまま使用することは難しいと考える。

一方で、北海道発の官営道路等、歴史的な山道が残されている等魅力的なトレイルや、調査員と住民との触れ合いが生まれる等、ハイカーにとって魅力的な要素も多くあることが分かった。

今回、調査しきれなかった十勝エリアを含めて引き続き調査をしていく必要がある。

（3）地域の機運醸成（参加者69名）

セミナーの開催（中札内、平取）：2会場において、ロングトレイルの魅力、MCTの事例等を紹介しグループワークによる意見交換を実施した。

【プログラム】

- ①「長く歩く旅の魅力と世界のロングトレイル」
一社）トレイルブレイズハイキング研究所 所長 長谷川 晋 氏
- ②「みちのく潮風トレイル」の事例について
NPO法人みちのくトレイルクラブ 事務局長 相澤 久美 氏
- ③みちのく潮風トレイルにおける普代村の事例紹介
普代村教育委員会事務局 生涯学習係長 前川 正樹 氏
- ④グループワーク（意見交換）



参加者の反応

道の決め方や、歩き方（トイレや宿泊の問題）等、ロングトレイル特有の質問を数多くいただいた。

運営の持続性等への不安の声もあったが、全体の印象としては、「とても可能性を感じた」「ありのままの地域の魅力を伝えられる」「ロングトレイル造成に積極的に関わりたい」等、ロングトレイルに対する好意的な意見が多かった。

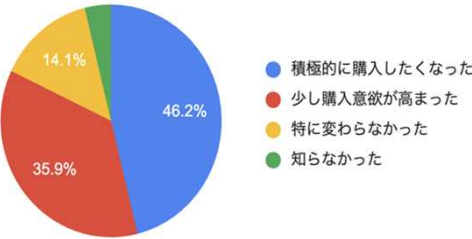
（4）来訪者が環境保全に貢献する手法の検証

様似町と共同で、ハイキングに興味関心が高い層をターゲットとして、参加することで自然環境保全に貢献できるイベント「HIDAKA TRAIL DAYS」を開催し、参加者の心理的変化等を把握することで、「ロングトレイル」を軸に誘客することで、来訪者が環境保全に貢献する仕組みづくりに繋がるかを検証した。

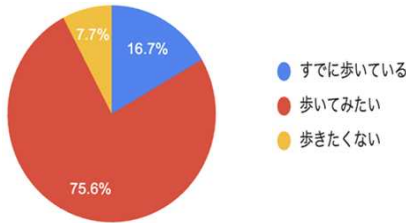


アンケートの一部

売上の一部が自然保護活動に寄付されると知った時、購買意欲はどう変化しましたか？



このイベントに参加してロングトレイルを歩いてみたいと思いましたか？



【HIDAKA TRAIL DAYS概要】

開催日時：2025年10月18日（土）～19日（日）
開催場所：アポイ山麓ファミリーパークキャンプ場（様似町）

- ・入場料の売上は、日高山脈の環境保全に充当
- ・飲食・物販などの出店者には、売上5%を環境保全活動に寄付をしていただく

参加者の80%以上が、売上が環境保全活動に寄付されることで購買欲が向上しており、また、90%以上が「ロングトレイルを歩きたい」もしくは「すでに歩いている」と回答していることから、「ロングトレイル」を軸に貢献できる機会をつくることで、来訪者に環境保全に貢献していただくことが可能であると考えられる。

(5) 運営体制の検討

ロングトレイルの造成、その後の運営に必要な事項や課題等について、専門家を招請し話題提供を行うとともに、当該エリア関係者と意見交換を実施した。

日時：2026年2月6日（金）13:00～16:00



【出席者】
日高山脈エリアの自治体職員、広域連携に取り組む民間事業者等 29名

【プログラム】

① 話題提供

- ・ロングトレイルの公共材としての認知と文化の醸成
NPO法人信越トレイルクラブ 代表理/北海道大学観光学高等研究センター 客員教授 木村 宏 氏
- ・ロングトレイルの維持管理・運営体制構築の考え方
NPO法人みちのくトレイルクラブ 事務局長 相澤 久美 氏

② 歩行調査結果報告

一社)トレイルブレイズハイキング研究所 所長 長谷川 晋 氏

③ 意見交換 等

(6) とりまとめ

「ロングトレイル」の地域にもたらす恩恵や、ハイカーの環境保全意識の高さ等が判明し、**「ロングトレイル」が持続可能な環境保全への手段になり得る**ことが確認できた。
また、「ロングトレイル」に対して好意的なイメージを抱く地域関係者も増え、機運が高まる等の成果があった一方で、以下のような課題も明らかになった。

■ 明らかになった課題

① ルートの安全性および維持管理体制の確立

持続可能なトレイルとして運営するためには、主体的な運営団体の確立が絶対必要であり、運営計画や詳細な安全基準等の策定等、官民が連携した体制構築が必要となる。

② 環境保全に資する資金循環の仕組みの構築

来訪者の消費を環境保全活動に還元する仕組みについて、利用者及び地域双方にとって受容性の高い具体的な運用方法を検討する必要がある。

③ 広域連携の具体化

13市町村にまたがる広大なエリアにおいて、各地域の特色を活かしつつ、「日高山脈エリア」として統一的なブランドメッセージ及びインタープリテーションの手法を整理する必要がある。

これらを踏まえ、次年度以降も①運営主体の検討、②ルート調査の深化、③ルート選定および法的整理、④実証フィールドでのモデル展開等の施策を段階的に実施していく必要がある。

今後のスケジュール

■ HIDAKA TRAIL DAYS 2026

アウトドアブランドや飲食等の物販、地域のPRブース出展、トレイル関連の体験プログラム、セミナーなどを実施

9月26日（土） 13：00～19：00

9月27日（日） 8：00～14：00

会場：アポイ山麓ファミリーパークキャンプ場（様似町）

■ 地域ワークショップ（全4回）

ロングトレイルの先進事例紹介、調査状況の報告、地域関係者や住民等との意見交換を行い、ロングトレイルルートの具体案を検討する

9月30日（水） 15:00～17:00 芽室町

10月1日（木） 10:00～12:00 大樹町 15:00～17:00 様似町

10月2日（金） 10:00～12:00 平取町

参加者：自治体関係者、観光協会、地域事業者（ガイド、宿泊、飲食等） 住民 等

※各地での開催場所は後日お知らせ

■ 地域を歩く実証調査

地域関係者とともに実際に地域を歩きながら、歩行環境や地域資源、景観、補給可能性等を確認し、「歩く旅」の可能性を検証する

参加者：地域ワークショップ参加者

※日程、開催地は後日お知らせ

■ 将来的なロングトレイル運営体制構築に向けた検討会

ロングトレイル形成に向けた課題や方向性、役割分担等の共有・意見交換

時期：来年2月上旬頃

参加者：自治体関係者、観光協会、山岳／歩く活動関係者、地域事業者（ガイド、宿泊、飲食等）、道路管理者等

※日程、開催地は後日お知らせ

先人の知恵に学ぶ 身近な水辺の保全 ～生命を支える水を後世に～

SYMPOSIUM FOR CREATING FOR HEARTY WATER ENVIRONMENT

©国土交通省 帯広開発建設部

参加費
無料

要事前
申し込み

2026
8 / 2 日
13:30-16:00
(開場 13:00)

会場 (オンライン併用)

沙流川歴史館レクチャーホール

北海道沙流郡平取町二風谷 227-2

オンライン配信あり (要申込: 定員150名)

お申し込み方法

参加申し込みは申込フォームから
<https://forms.gle/JSZPEF7bVGY3FV6L9>

申し込み締切: 7月28日(火)



開催趣旨

日高山脈を源流とする沙流川や十勝川水系札内川などの流域は古来より、たくさんの生命を支える生物多様性の源であるとともに、アイヌ文化をはじめとする人々の暮らしを育んできた、生物文化多様性の場となっています。

本シンポジウムは、アイヌの人々、流域保全活動に取り組んできた先人たちの知恵について紹介いただき、生態系管理の視点から身近な水辺環境の保全について考えることにより、良好な水環境を創出・保全していく取組の環を広げることを目的として開催します。

©国土交通省 室蘭開発建設部

01 基調講演

水が育む地域の文化
ー災いと恵みを活かす知恵ー

中村 太士 氏

北海道大学 名誉教授



02 事例紹介・パネルディスカッション

令和6年に指定された日高山脈襟裳十勝国立公園と周辺地域で活躍される4名の方に事例紹介をいただいたあと、パネルディスカッションを行います

プログラム

13:30~13:40	開会挨拶
13:40~14:20	基調講演
14:20~14:30	休憩
14:30~15:50	事例紹介・パネルディスカッション
15:50~16:00	閉会挨拶

登壇者

中村 太士 氏	北海道大学名誉教授
門別 徳司 氏	株式会社平取町アイヌ文化振興公社
竹中 健 氏	シマフクロウ環境研究会
石原 由美子 氏	十勝川水系自然再生検討会
赤坂 卓美 氏	帯広畜産大学環境農学研究部門
草留 大岳 氏	環境省新ひだか自然保護官事務所

申込に関する問い合わせ先

☎ 011-218-7811 【(公財)北海道環境財団企画事業課】

[主催] 環境省北海道環境局

[後援] 国土交通省北海道開発局、林野庁北海道森林管理局日高北部森林管理署 [協力] 十勝総合振興局、日高振興局、平取町

[画像出典] 北海道開発局室蘭開発建設部ウェブサイト (<https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/tisui/nkl4jv00000006hu.html>)

北海道開発局帯広開発建設部ウェブサイト (<https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/tisui/tisuijigyoy/fns6al0000000eenw.html>)

基調講演

[13:40-14:20]

中村 太士 氏 北海道大学 名誉教授

水が育む地域の文化 ー 災いと恵みを活かす知恵ー

川は、多くの生物を育む豊かな環境を創る一方で、洪水や土石流などの災害をもたらす。

この恵みと災いの矛盾をつながりとして捉えることで、川と共生する豊かな文化が育まれてきた。

講師プロフィール：1958年愛知県名古屋生まれ。1983年北海道大学大学院農学研究科林学専攻修士課程修了。農学博士。1984年北海道大学農学部助手として採用。1990年同講師、1992年同助教授、2000年同教授。2024年3月定年退職し、現在は北海道大学名誉教授。1990年から92年までアメリカのオレゴン州立大学で生態系管理学を学ぶ。森林と川のつながりなど、生態系間の相互作用を土地利用も含めて流域の視点から研究している。

取組紹介・パネルディスカッション

事例紹介 01 門別 徳司 氏

株式会社平取町アイヌ文化振興公社

コタンコロカムイが棲む森づくり

アイヌの人々と密接な関係にあったが自然環境の変化で生息域が失われたシマフクロウ。

かつての豊かな自然の象徴として再び棲めるための環境づくりの取組を紹介する。

事例紹介 03 石原 由美子 氏

十勝川水系自然再生検討会

私たちの手で魅力を発掘～札内川～

「札内川の魅力を探り、それを地域活性化につなげられないか？」地域住民で組織した札内川懇談会が2012年から取り組んできた、さまざまな活動について御紹介します。

事例紹介 02 竹中 健 氏

シマフクロウ環境研究会

シマフクロウ 北海道の自然の守り神

シマフクロウは豊富な魚と大木のある森に支えられ、縄張りを世代を超えて受け継ぎます。絶滅寸前から回復しつつあるシマフクロウが生きる地域の価値を皆さんと考えます。

事例紹介 04 赤坂 卓美 氏

帯広畜産大学環境農学研究部門

湧水のある河川がもたらす生態系とは？

十勝川水系には、豊富な湧水が流入しています。流域の生き物に対する湧水の役割を紐解き、地域で取り組む保全活動の意義を考えます。

パネリスト

後半は、環境省新ひだか自然保護官事務所の担当官も参加し、ディスカッションを行います。



中村 太士 氏
北海道大学 名誉教授
ファシリテーター



門別 徳司 氏
株式会社平取町
アイヌ文化振興公社



竹中 健 氏
シマフクロウ
環境研究会



石原 由美子 氏
十勝川水系自然
再生検討会



赤坂 卓美 氏
帯広畜産大学
環境農学研究部門



草留 大岳 氏
環境省新ひだか
自然保護官事務所

会場へのアクセス ……沙流川歴史館レクチャーホール



帯広方面からお越しの場合（車）

道東自動車道（帯広JCT）から「占冠IC」を下車。国道237号（日高・平取方面）を南下して約65分。

札幌方面からお越しの場合（車）

道央自動車道（札幌南IC）から苫小牧東JCTを経由して日高自動車道へ。「日高富川IC」を下車後、国道237号を平取方面へ約15分

P 二風谷コタン駐車場をご利用の上、コタン内を歩いて会場へお越しください。

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約

(名称)

第1条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園協議会と称する。

(目的)

第2条 本会は、日高山脈襟裳十勝国立公園の保全と利用の目標を示した国立公園ビジョンを策定するとともに、その実現を目指して、構成員が連携した取組を推進することにより、本公園の優れた自然環境の保全と適正な利用を推進することを目的として設置する。

(協議事項)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事項を協議する

- (1) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンに関する事項
- (2) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョンの実現に向けた管理運営方針及び行動計画に関する事項
- (3) 前号の行動計画に基づく取組の実施に関する事項
- (4) その他、前条の目的の達成のために必要な事項

(構成)

第4条 本会は、別添1に掲げる機関、団体等により構成する。

(会長)

第5条 会長は、北海道地方環境事務所長が務める。

(総会)

第6条 総会は、年1回開催するほか、会長の招集により必要に応じて開催する。

- 2 総会の議長は、会長が務める。
- 3 総会は、第3条の事項について協議する。

(幹事会)

第7条 本会に、幹事会を設置する。

- 2 幹事会は、必要に応じて事務局が招集する。
- 3 幹事会の構成員は、別添2による。
- 4 幹事会は、総会の議事に関する予備的協議、その他連絡調整を行う。
- 5 幹事会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 本会に、部会を設けることができる。

- 2 部会の設置及び運営に必要な事項は、総会において決定する。
- 3 部会は、必要に応じ別添3のアドバイザーを招聘し意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 本会の事務局を、北海道地方環境事務所国立公園課に置く。

- 2 事務局は、会の庶務を行う。

附則

この規約は、令和6年8月27日から施行する。

この規約は、令和7年6月23日から施行する（構成員の一部変更）。

この規約は、令和8年4月10日から施行する（構成員の追加）。

機関・団体等	構成員
学識経験者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署長
	十勝西部森林管理署長
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課長
	北海道運輸局観光部長
	北海道地方環境事務所長
北海道	環境生活部長
	日高振興局長
	十勝総合振興局長
市町村	帯広市長
	日高町長
	平取町長
	新冠町長
	浦河町長
	様似町長
	えりも町長
	新ひだか町長
	清水町長
	芽室町長
	中札内村長
	大樹町長
	広尾町長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会 共同代表
観光関係団体	十勝観光連盟会長
	日高管内観光連盟会長
アイヌ団体	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長

機関・団体等	幹事会構成員
有識者	中村 太士（北海道大学名誉教授）
	愛甲 哲也（北海道大学教授）
国	日高北部森林管理署長
	日高南部森林管理署総括事務管理官
	十勝西部森林管理署総括事務管理官
	北海道開発局開発監理部開発連携推進課開発企画官
	帯広運輸支局 首席運輸企画専門官(企画輸送・監査担当)
	室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官（総務企画担当）
	北海道地方環境事務所国立公園課長
北海道	環境生活部自然環境局自然環境課自然公園担当課長
	日高振興局環境生活課長
	十勝総合振興局環境生活課長
市町村	帯広市都市環境部環境室環境課長
	日高町日高総合支所地域経済課長
	平取町観光商工課長
	新冠町企画課長
	浦河町商工観光課長
	様似町商工観光課長
	えりも町産業振興課長
	新ひだか町総務部まちづくり推進課長
	清水町農林課長
	芽室町環境土木課長
	中札内村産業課長
	大樹町住民課長
	広尾町水産商工観光課長
登山関係団体	十勝山岳連盟会長
	日高山岳連盟会長
自然保護団体	アポイ岳ファンクラブ会長
	十勝自然保護協会事務局長
観光関係団体	十勝観光連盟事務局長
	日高管内観光連盟事務局長
アイヌ団体	小川 哲也（公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長）
	木村 英彦（公益社団法人北海道アイヌ協会理事）

(アドバイザー)

学識経験者

アイヌ文化関係団体

登山関係団体又は山岳ガイド事業者

遭難対策関係団体

自然保護関係団体

観光関係団体又は観光事業者

交通事業者

経済関係団体

金融関係団体

その他、協議会が認める者

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会登山道部会規約

令和7年5月7日

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会総会決定

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約第8条に基づき、次の部会を設置する。

(名称)

第1条 本部会の名称は、「登山道部会」とする。

(目的)

第2条 日高山脈襟裳十勝国立公園の核心部となる日高山脈の登山道は、非常に難易度の高いものから初級者に利用可能なものまで多岐にわたる。そのため、登山利用のリスク軽減並びに登山道及びその周辺環境の保全が図られるよう、既設登山道の適正利用に係る課題を把握し、普及啓発等の必要な対策について検討することを目的とする。

(検討事項)

第3条 日高山脈襟裳十勝国立公園全域に共通する以下の事項について検討を行い、その結果は日高山脈襟裳十勝国立公園協議会及び幹事会に報告する。

- (1) 登山道の適正利用に関する事項(入山心得、グレードの設定等)
- (2) 登山道及びその周辺環境の保全に関する事項(環境モニタリング等)
- (3) 上記のほか本部会の目的を達成するために必要な事項

(構成)

第4条 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会構成機関等のうち、参画を希望する者により構成するほか、必要に応じて、アドバイザーを招へいすることができる。

(開催頻度)

第5条 登山道の利用状況等を踏まえて、本部会で検討が必要な議題に応じて随時開催する。

(事務局)

第6条 事務局は、北海道地方環境事務所国立公園課が担う。また、必要に応じて、構成機関が共同事務局を担うこともできる。

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会
登山道部会 名簿

構成
日高北部森林管理署
日高南部森林管理署
十勝西部森林管理署
北海道開発局
北海道運輸局
北海道地方環境事務所
北海道
帯広市
日高町
平取町
新冠町
浦河町
様似町
えりも町
新ひだか町
清水町
芽室町
中札内村
大樹町
広尾町
日高山岳連盟
十勝山岳連盟
アポイ岳ファンクラブ
十勝自然保護協会
十勝観光連盟
日高管内観光連盟
北海道大学大学院 教授 愛甲 哲也

※その他、必要に応じて、アドバイザーを招へいする。

国立公園管理運営計画作成要領

各地方環境事務所長等宛 自然環境局長通知
制定 令和4年4月1日 環自国発第22040113号

第1 目的

国立公園管理運営計画（以下「管理運営計画」という。）は、国立公園ごとに作成された公園計画に示す基本方針（「国立公園に係る公園計画の作成等について」（令和4年4月1日付け環自国発第2204015号自然環境局長通知）別紙1「国立公園の公園計画作成要領」第4の（参照）に記載された国立公園の風致景観及び自然環境、利用状況等の公園ごとの特性を踏まえた公園の望ましい姿、公園が提供すべきサービス、公園の価値や保全・利用の目標をわかりやすく示したビジョン（以下「ビジョン」という。）の実現を地域の多様な関係者とともに図ること、また、地域の実情に即した国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的として作成するものとする。

第2 管理運営計画の作成対象地域

管理運営計画の作成対象地域（以下「管理運営計画区」という。）は、一体性の高い国立公園の場合は国立公園全域とし、風致景観の特性（一体性又は類似性）及び社会的特性（地域の連携体制、利用の形態等）を踏まえ、国立公園を複数の地区に区分することが合理的であると認められる場合は、その地区ごとに作成するものとする。

第3 管理運営計画の構成と内容

管理運営計画は、行動計画及び許認可等取扱方針によって構成することとし、それぞれ、原則として次に掲げる事項について記載することとする。

（1）行動計画

行動計画は、当該国立公園のビジョンの実現に向け、環境省が地域の多様な関係者とともに実施すべき取組方策及び役割分担について定めるものであり、次の項目を記載することとする。

ア 国立公園のビジョン・管理運営方針

公園計画の基本方針に示す国立公園のビジョン及び管理運営方針を記載する。また、管理運営計画区を構成する風致景観及び自然環境の概況、利用の概況、公園計画（規制計画及び事業計画）の概況を記載する。ビジョン及び管理運営方針は、必要に応じて管理運営計画区ごとに整理して記載する。

イ 管理運営の体系

国立公園のビジョン実現に向け、管理運営計画区において実行するプロジェクト・事業ごとに、各種企画調整、計画作成及び管理運営に係る枠組み・体制（協議会、連絡会議等の設置と計画作成等の体系）について整理し、記載する。

なお、必要に応じて、管理運営計画区において実行するプロジェクト・事業を対象に作成する別の計画に、行動計画の全部又は一部を代替させることができることとする（行動計画の全部又は一部を代替させる計画を「代替計画」という。以下同じ。）代替計画としては、世界自然遺産地域管理計画、自然再生全体構想、国立公園満喫プロジェクトに係るステップアッププログラム等が想定される。

代替計画を設定する場合には、行動計画に、代替計画の名称、対象とするプロジェクト・事業の名称、検討・協議を行う協議会等の体制その他の代替計画の概要を記載することとする。なお、代替計画を設定する場合には、その代替する範囲内について、行動計画においては以下のウ～カに係る事項の記載を省略することができることとする。

ウ 現状分析

管理運営計画区の特徴、来訪者数等のデータ、前期計画による取組の進捗及び成果、パークボランティアの会・公園管理団体その他の関係団体による活動状況、前期計画作成後の自然環境や社会状況の変化等の情報を整理の上、ビジョンの実現に向けて管理運営計画区が有する課題を分析し記載する。

エ 取組方針

国立公園のビジョン実現に向けて、現状分析で示された課題の解決に向けて実施する取組の方針、計画期間中の到達目標、取組共通の基本原則等を記載する。

オ 取組方策及び役割分担

取組方針に即し、計画期間中の到達目標を達成させるため、実施する取組方策とその役割分担等を記載する。

カ 効果検証

国立公園の管理運営に関する評価指標及び評価手法、行動計画の進捗状況の確認方法等を記載する。管理有効性評価として、生物多様性、レクリエーション利用、経済効果、地域協働等の多面的な観点から評価し、その評価結果を次期計画に反映できることが望ましい。

（２）許認可等取扱方針

許認可等取扱方針は、自然公園法（昭和 32 年法律第 161 号。以下「法」という。）の許認可事務に係る取扱方針を定めるものである。

ア 許可、届出等取扱方針

管理運営計画区内における特別地域、特別保護地区及び海域公園地区（以下「特別地域等」という。）普通地域、利用調整地区内において行う行為に関する許可、届出に対する措置に係る取扱方針を定めることとする。

審査基準・処分基準

特別地域等に係る法第 20 条第 3 項、第 21 条第 3 項、第 22 条第 3 項に基づく許可の審査基準として、自然公園法施行規則（昭和 32 年厚生省令第 41 号。以下「施行規則」という。）第 11 条に規定する基準の内容を地域の自然的、社会的条件に応じて具

体化した基準等を定める。なお、施行規則第 11 条に規定する基準と重複する内容を本取扱方針において記載する必要はないこと、施行規則第 11 条に規定する基準の強化又は緩和については、同条第 37 項に規定する基準の特例を定めることにより対応することについて留意すること。

また、普通地域内において法第 33 条第 1 項の規定により届出を要する行為のうち、国立公園の普通地域の風景の保護上、大きな影響を与える可能性のある行為について、同条第 2 項に基づき、その行為を禁止し、若しくは制限し、又は必要な措置をとるべき旨を命ずることに際してよるべき基準である「国立公園普通地域内における措置命令等に関する処分基準」(平成 13 年 5 月 28 日付け環自国第 212 号環境省自然環境局長通知)の内容を地域の自然的、社会的条件に応じて具体化した基準等を定める。

さらには、利用調整地区への立入りに係る法第 23 条第 3 項第 7 号に基づく申請に対する許可について、やむを得ない事由に係る事項を定める。

配慮事項・指導方針等

管理運営計画区の保護のために配慮が必要な事項、申請者等への指導方針等を定める。

イ 公園事業取扱方針

管理運営計画区における公園事業の取扱方針として、次に掲げる事項を定めるとする。

審査基準

管理運営計画区の自然的及び社会的条件に応じ、法第 10 条第 2 項に基づく協議又は同条第 3 項に基づく国立公園事業の認可(同条第 6 項の変更の協議又は認可を含む。)の要件として、当該公園の保護のための基準(公園事業施設の形態や色彩等)又は適正な公園利用を確保するための基準(公園事業の執行に当たって遵守すべき事項等)等を定める。なお、本審査基準は「国立公園事業執行等取扱要領」(令和 4 年 4 月 1 日付け環自国発第 22040111 号自然環境局長通知)の第 12 の 1.(2)に該当するため、留意すること。

指導方針・管理方針等

管理運営計画区における公園事業者への指導方針や公園事業施設の管理方針等を定める。

ウ その他の事務に係る取扱方針

ア・イに掲げるもののほか、必要に応じて法第 37 条に規定する利用のための規制に係る運用方針、国立公園の利用者等を指導する取扱方針等に係る事項を定める。

エ 参考資料

その他、許認可事務を実施する上で参考となる資料を添付する。具体的には、施行規則第 11 条 37 項に基づき定められた行為の許可基準の特例、法第 20 条第 3 項第 11 号又は同項第 13 号により環境大臣が指定する動植物の一覧、「自然公園における法面

緑化指針（平成 27 年 10 月 27 日付け環自国発第 1510271 号環境省自然環境局長通知）等が想定される。

（３）その他の事項

その他、管理運営計画の変更理由や作成・変更の経緯、関連する計画等、管理運営計画を参照する上で必要な事項について記載をする。

第４ 管理運営計画の作成手続

（１）管理運営計画の作成及び変更

管理運営計画は、地方環境事務所長（釧路自然環境事務所長、信越自然環境事務所長及び沖縄奄美自然環境事務所長を含む。以下同じ。）が作成（変更する場合も含む。以下同じ。）するものとし、第３に掲げる行動計画（以下「行動計画」という。）及び許認可等取扱方針（以下、「取扱方針」という。）について、それぞれ分けて作成できるものとする。

なお、管理運営計画は、作成後おおむね５年を経過した場合において点検を行うこととし、その結果に基づき必要と認める場合には、変更を行うこととする。点検により地方環境事務所長が見直しの必要がないと判断した場合であっては、次の５年後に再度点検を行うこととする。また、部分的な変更については必要に応じて随時実施することができる。

（２）具体的な作業の手順

地方環境事務所長は次に掲げる手順により、管理運営計画を作成することとする（手順の概要は別紙参照。）。

ア 管理運営計画の素案の作成

地方環境事務所長は、都道府県、市町村その他の関係行政機関及び国立公園の管理運営に携わる地域関係者その他地方環境事務所長が必要と認める者の意見を十分に聴取し、管理運営計画の素案を作成する。意見の聴取に当たっては、必要に応じて第５に定める検討会を設置し活用する。

イ 自然環境局国立公園課長への協議

第３（１）ア、イの変更を伴う行動計画の変更、取扱方針の変更のうち行政手続法第６章の規定による意見公募手続をしなければならない変更については、地方環境事務所長は、素案について自然環境局国立公園課長に協議するものとする。

ウ 法定受託事務を行う都道府県知事への協議

地方環境事務所長は、管理運営計画区が自然公園法施行令（昭和 32 年政令第 298 号）附則第２項に規定する指定区域と重複する場合には、当該指定区域で法定受託事務を行う都道府県知事に対して、素案のうち取扱方針の第３（２）アに係る事項について公文により意見照会するものとする。

エ 意見公募手続及び管理運営計画案の作成

地方環境事務所長は、必要に応じ自然環境局国立公園課長と調整の上、意見公募手

続を実施し、管理運営計画案を作成する。

なお、取扱方針の第3(2)ア及びイに定める審査基準等については、行政手続法第5条第1項に規定する審査基準であることから、行政手続法第6章の規定による意見公募手続を行わなければならないため、留意すること。ただし、この場合であっても、許認可の審査に係らない事項等、軽微な変更であって、意見公募手続の必要がないと地方環境事務所長が判断した場合は省略できるものとする。

オ 自然環境局長への協議

地方環境事務所長は、管理運営計画案について、公文により自然環境局長に協議する。自然環境局長は、地方環境事務所長から案の協議を受けたときには、原則として2か月以内に同意の可否について回答するものとする。

なお、「イ 自然環境局国立公園課長への協議」において協議対象とされた事項以外の事項の変更については自然環境局長への協議を省略できる。

カ 管理運営計画の公表及び報告

地方環境事務所長は、管理運営計画を作成した際は、インターネット等の適当な方法によって公表するとともに、速やかに自然環境局長にその旨を報告するものとする。

また、管理運営計画の取扱方針については、事前周知を行う観点から、施行期日を定める等、公表後一定期間をおいて施行するよう配慮すること。

キ その他

ア～カの協議又は報告については原則として電子情報処理組織を使用する方法をもって行うものとする（協議の相手方との調整により書面を求められた場合にはこの限りでない。）。

第5 管理運営計画検討会の設置

- 1 管理運営計画の案の検討に当たり必要があると認めるときは、地方環境事務所長は検討項目ごとに、国立公園管理運営計画検討会（以下、「検討会」という。）を開催することができる。
- 2 検討会は、検討項目に応じて、学識者、地元関係行政機関及び地域関係者その他の地方環境事務所長が必要と認める者により構成することとする。また、検討項目に応じて、総合型協議会、世界自然遺産地域連絡会議、国立公園満喫プロジェクト地域協議会等の既存の協議会等を活用することができるものとする。